

嘉麻市教育委員会 点検・評価報告書

(令和2年度事業分)



令和3年9月

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条及び嘉麻市教育基本条例第7条の規定に基づき、令和2年度の教育委員会の点検及び評価を行いましたことを報告します。

嘉麻市教育委員会委員名簿

令和3年9月現在

職名	氏名	任期
教育長	木本寛昭	平成30年11月9日～令和3年11月9日
教育長職務代理者	豊福眸子	平成30年7月4日～令和4年7月3日
委員	佐竹正利	令和3年7月4日～令和7年7月3日
委員	辻田喜美	令和2年8月29日～令和6年8月28日
委員	犬丸隆行	令和元年7月4日～令和5年7月3日

目 次

1. 教育委員会点検・評価の概要について	1
(1) はじめに	1
(2) 点検・評価の導入の目的	1
(3) 点検・評価する対象	1
(4) 点検・評価の方法	1
(5) 結果の取扱い	2
(6) 嘉麻市教育行政の基本理念	2
(7) 嘉麻市教育振興基本計画	2
「第4次嘉麻市教育アクションプラン（平成30年度～令和2年度）」	
2. 教育委員会の取組	3
(1) 令和2年度教育委員会実施状況	3
(2) 令和2年度教育委員会の会議における主な議案	3
(3) 令和2年度教育委員会の会議における主な協議	4
(4) 令和2年度教育委員会の会議における主な報告	4
3. 各種学校調査の結果	8
4. 事業別評価結果	11
■主要施策1 少人数指導等による学力向上	15
■主要施策2 個性又は能力を育成する学校教育の充実	19
■主要施策3 豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進	37
■主要施策4 生涯学習の実現を目指す社会教育の推進	53
■主要施策5 体力及び運動能力向上の推進	62
■主要施策6 人権尊重精神を育成する教育の推進	68
■主要施策7 市民文化の創造	72
5. 全体評価結果	79
《資料》	
・ 嘉麻市教育委員会点検評価実施要綱	85
・ 令和3年度嘉麻市教育委員会点検評価委員名簿	87

1. 教育委員会点検・評価の概要について

(1) はじめに

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（以下「地教行法」という。）の一部改正及び嘉麻市教育基本条例の制定により、平成20年4月から、嘉麻市教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表しています。

(2) 点検・評価の導入の目的

教育委員会制度は、首長から独立した合議制の教育委員会が決定する教育行政に関する基本方針のもと、教育長及び事務局が広範かつ専門的な具体の教育行政事務を執行するものです。

このため、事前に教育委員会が立てた基本方針にそって、具体的な教育行政が執行されているかどうかについて、教育委員会自らが事後にチェックする必要があり、教育委員会が地域住民に対する説明責任を果たし、その活動を充実させることが目的です。

(3) 点検・評価する対象

第4次嘉麻市教育アクションプラン（平成30年度～令和2年度嘉麻市教育振興基本計画）の事業を対象とします。

(4) 点検・評価の方法

事業ごとに目標達成度の観点から自己評価を行い、点検・評価の客観性を確保するために第三者評価を行いました。

第三者評価については、教育委員や現場教員・事務局職員等ではない人で、教育に関して公正な意見を述べることを期待できる人を想定し、議会、PTA連合会、社会教育委員の会議、公民館運営審議会、図書館協議会、織田廣喜美術館運営協議会、スポーツ推進委員、文化財保護審議会より推薦をいただいた方に依頼し、評価していただきました。

《点検・評価の流れ》

- ① 教育委員会事務局（担当課）においてその所管する事務事業等を自己評価
- ② 自己評価の結果について評価の客観性を確保するため、嘉麻市教育委員会点検評価委員を設置し、自己評価に対しての評価
- ③ 教育委員会は評価委員の意見を踏まえ、教育委員会の会議において最終的な点検評価
- ④ 議会へ報告
- ⑤ 議会報告後、速やかにホームページ等で一般公表

(5) 結果の取扱い

この点検・評価においては、事業ごとに4段階【A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要】で評価し、評価の高い事業については引き続き実施し、評価の低い事業については課題や問題の解決を行うと同時に、事業の見直しについて検討していく予定です。

(6) 嘉麻市教育行政の基本理念

嘉麻市教育委員会では、嘉麻市教育基本条例第2条の基本理念に基づき、本市の教育行政を実施していきます。

嘉麻市教育基本条例(抜粋)

(基本理念)

第2条 教育は、人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び地域社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な市民の育成を期して行われなければならない。

2 市民一人一人が、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる社会の実現が図られなければならない。

3 家庭、地域住民及び市は、前2項に定める基本理念の実現に努めるものとする。

(7) 嘉麻市教育振興基本計画

「第4次嘉麻市教育アクションプラン（平成30年度～令和2年度）」

嘉麻市教育委員会では、教育行政の基本理念に基づき、本市における教育振興のための施策に関し基本的な事項を定めた「第4次嘉麻市教育アクションプラン」を策定し、学校教育、社会教育、文化・芸術の各分野における7つの教育施策を柱として、その実現に向けた施策を推進しました。

1. 少人数指導（1学級を30人以下の児童又は生徒で編成する等の指導形態をいう。）等による学力向上
2. 個性又は能力を育成する学校教育の充実
3. 豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進
4. 生涯学習の実現を目指す社会教育の推進
5. 体力及び運動能力向上の推進
6. 人権尊重精神を育成する教育の推進
7. 市民文化の創造

この7つの施策に基づく事業を対象に、点検・評価を実施しました。

* 第4次嘉麻市教育アクションプラン（平成30年度～令和2年度 嘉麻市教育振興基本計画）は、以下のホームページにてご覧いただけます。

「嘉麻市教育アクションプラン」

<http://www.city.kama.lg.jp>・・・ 情報を探す→キーワードでさがす

キーワード「教育アクションプラン」と入力してください。

2. 教育委員会の取組

(1) 令和2年度教育委員会実施状況

教育委員会は教育長を含む5名の委員で構成され、会議の実施については、原則、定例会が毎月1回、臨時会は必要に応じて開催し、教育行政に関する重要事項等を適時適切に慎重に審議しています。

また、嘉麻市教育委員会定例学校訪問実施要項に基づき、定例学校訪問を実施しています。小中学校を訪問することで、学校教育現場の状況を確認することができ、教育委員の立場から要望など意見を述べました。

◆令和2年度教育委員会開催実績

- ・ 定例会 12回
- ・ 臨時会 4回 計 16回

◆令和2年度嘉麻市教育委員会学校訪問の実施状況

- ・ 定例学校訪問（1校）

嘉麻市教育委員会が各学校における学校経営の諸課題を把握するとともに、改善に向けた方向性について、協議及び所要の指導・支援を行うことにより、学校力を向上させる取組です。

実施日：令和2年10月20日（火） 学校名：熊ヶ畑小学校

(2) 令和2年度教育委員会の会議における主な議案

番号	議案	開催日
1	嘉麻市教育委員会障害者活躍推進計画の策定について	4/1
2	嘉麻市奨学資金条例施行規則の一部を改正する規則について	4/1
3	嘉麻市学校評議員の委嘱について	5/12
4	嘉麻市学校関係者評価委員の委嘱について	5/12
5	嘉麻市立小・中学校管理規則の一部を改正する規則について	7/20
6	令和3年度使用中学校用教科書の採択について	8/4
7	嘉麻市立小中学校プール施設整備の方向性について	8/4
8	嘉麻市教育委員会点検・評価報告（令和元年度事業分）について	8/21
9	嘉麻市碓井住民センター条例施行規則について	9/2
10	嘉麻市教育委員会の権限に属する事務の補助執行に関する規則の一部を改正する規則について	9/2
11	嘉麻市教育研究所条例等の一部を改正する条例の施行期日を定める規則について	9/2

12	嘉麻市碓井住民センター条例の一部を改正する条例の施行期日を定める規則について	9/2
13	嘉麻市学校給食運営審議会の諮問について	10/13
14	嘉麻市個別施設見直し計画の変更について（要望）	11/4
15	嘉麻市スポーツ推進計画実施計画（案）の策定について（諮問）	11/4
16	嘉麻市少年相談センター規則の一部を改正する規則について	12/1
17	嘉麻市公民館条例施行規則の一部を改正する規則について	1/5
18	嘉麻市立義務教育学校開校準備委員会条例施行規則について	1/5
19	碓井中学校区義務教育学校開校準備委員会委員の委嘱について	3/2
20	稲築中学校区義務教育学校開校準備委員会委員の委嘱について	3/2
21	稲築東中学校区義務教育学校開校準備委員会委員の委嘱について	3/2
22	碓井中学校区義務教育学校開校準備について（諮問）	3/2
23	稲築中学校区義務教育学校開校準備について（諮問）	3/2
24	稲築東中学校区義務教育学校開校準備について（諮問）	3/2
25	嘉麻市教育委員会に提出する書類の押印の特例に関する規則について	3/25
26	嘉麻市立小・中学校管理規則の一部を改正する規則について	3/25
27	嘉麻市社会体育施設条例施行規則の一部を改正する規則について	3/25

(3) 令和2年度教育委員会の会議における主な協議

番号	協 議	開催日
1	新型コロナウイルス感染拡大に伴う対応について	4/30
2	学校プール施設整備の方向性について	7/20
3	嘉麻市教育委員会点検・評価報告（令和元年度事業分）について	8/4
4	嘉麻市成人式について	9/2
5	第5次教育アクションプラン（案）について	1/5
	（継続）第5次教育アクションプラン（案）について	2/2
6	義務教育学校名称の形式について	3/2

(4) 令和2年度教育委員会の会議における主な報告

番号	報 告	開催日
1	嘉麻市新型コロナウイルス感染症対策について	4/1

2	生徒指導上の諸問題に関する実態調査「月例報告」について	4/1
3	新型コロナウイルス感染症対策に係る国の緊急事態宣言を受けての対応について	4/8
4	嘉麻市立小・中学校における学校外活動出席とみなす場合の規程について	5/12
5	嘉麻市就学援助費交付認定規程の一部を改正する告示について	5/12
6	嘉麻市奨学資金貸付審議会委員の委嘱に関する臨時代理について	5/12
7	嘉麻市奨学資金貸付審議会の諮問及び答申に関する臨時代理について	5/12
8	嘉麻市スポーツ推進審議会委員の委嘱に関する臨時代理について	5/12
9	令和元年度嘉麻市立中学校卒業生の進路報告について	5/12
10	生徒指導上の諸問題に関する実態調査「月例報告」について	5/12
11	新型コロナウイルス感染拡大に伴う対応について	5/12
12	嘉麻市教育委員会点検評価実施要綱等の一部を改正する要綱について	6/2
13	嘉麻市社会教育委員の委嘱に関する臨時代理について	6/2
14	嘉麻市公民館運営審議会委員の委嘱に関する臨時代理について	6/2
15	嘉麻市立図書館協議会委員の委嘱に関する臨時代理について	6/2
16	嘉麻市立織田廣喜美術館運営協議会委員の委嘱に関する臨時代理について	6/2
17	嘉麻市文化財保護審議会委員の委嘱に関する臨時代理について	6/2
18	令和2年6月議会上程議案について	6/2
19	生徒指導上の諸問題に関する実態調査「月例報告」について	6/2
20	新型コロナウイルス感染拡大に伴う対応について	6/2
21	嘉麻市就学援助費交付認定規程の一部を改正する告示について	7/20
22	嘉麻市学校給食臨時休業対策費補助金交付要綱について	7/20
23	嘉麻市社会教育委員の委嘱に関する臨時代理について	7/20
24	嘉麻市公民館運営審議会委員の委嘱に関する臨時代理について	7/20
25	嘉麻市スポーツ推進委員の委嘱に関する臨時代理について	7/20
26	生徒指導上の諸問題に関する実態調査「月例報告」について	7/20
27	新型コロナウイルス感染拡大に伴う対応について	7/20
28	嘉麻市土曜未来塾支援連絡会議設置要綱の一部を改正する要綱について	8/4
29	嘉麻市奨学資金貸付審議会の諮問及び答申に関する臨時代理について	8/4
30	生徒指導上の諸問題に関する実態調査「月例報告」について	8/4
31	新型コロナウイルス感染拡大に伴う対応について	8/4
32	嘉麻市議会「学校施設整備に関する調査特別委員会」協議資料について	8/21

33	嘉麻市立小学校オンライン英会話事業業務委託契約に関する競技審査会設置要綱について	9/2
34	嘉麻市適応指導教室設置規程の一部を改正する告示について	9/2
35	標準学力検査(フクト)の結果について	9/2
36	令和2年9月議会上程議案等について	9/2
37	生徒指導上の諸問題に関する実態調査「月例報告」について	9/2
38	新型コロナウイルス感染拡大に伴う対応について	9/2
39	嘉麻市小中一貫教育本部会議設置要綱について	10/13
40	嘉麻市小中一貫教育準備委員会設置要綱について	10/13
41	嘉麻市スポーツ推進委員の委嘱に関する臨時代理について	10/13
42	嘉麻市スポーツ推進審議会委員の委嘱に関する臨時代理について	10/13
43	生徒指導上の諸問題に関する実態調査「月例報告」について	10/13
44	新型コロナウイルス感染拡大に伴う対応について	10/13
45	第5次嘉麻市教育アクションプラン概要(案)について	11/4
46	生徒指導上の諸問題に関する実態調査「月例報告」について	11/4
47	嘉麻市立小・中学校修学旅行感染症対策支援事業補助金交付規程の制定について	12/1
48	嘉麻市社会教育施設等使用料の減免に関する要綱の一部を改正する要綱について	12/1
49	嘉麻市歴史民俗資料展示・保管施設条例の一部を改正する条例(案)についてのパブリックコメント募集の実施について	12/1
50	令和2年第1回嘉麻市議会臨時会上程議案等について	12/1
51	令和2年12月嘉麻市議会上程議案等について	12/1
52	令和3年度嘉麻市立小中学校の入学式・卒業証書授与式等の期日について	12/1
53	生徒指導上の諸問題に関する実態調査「月例報告」について	12/1
54	令和2年12月嘉麻市議会定例会追加付議事件について	1/5
55	生徒指導上の諸問題に関する実態調査「月例報告」について	1/5
56	嘉麻市小中一貫教育本部会議専門部会設置要綱について	2/2
57	嘉麻市スポーツ推進計画実施計画の策定について(答申)	2/2
58	嘉麻市奨学資金貸付審議会の諮問及び答申に関する臨時代理について	2/2
59	令和3年第1回嘉麻市議会臨時会上程議案等について	2/2
60	生徒指導上の諸問題に関する実態調査「月例報告」について	2/2
61	嘉麻市学校給食業務の民間委託について(答申)	3/2

62	第5次嘉麻市教育アクションプランについて	3/2
63	令和3年第1回嘉麻市議会臨時会上程議案等について	3/2
64	令和3年3月嘉麻市議会上程議案等について	3/2
65	生徒指導上の諸問題に関する実態調査「月例報告」について	3/2
66	嘉麻市立図書館における国立国会図書館デジタル化資料サービス利用に関する事務処理要領について	3/25
67	令和3年3月嘉麻市議会上程議案等について	3/25
68	令和3年3月嘉麻市議会追加提案等について	3/25
69	令和3年度教職員の人事（内示）について	3/25

3. 各種学校調査の結果

まず、はじめに嘉麻市内各小中学校における、少人数指導特別教員、特別支援教育補助教員等の配置状況をまとめました。令和2年度についても、個に応じた指導の充実を図るため、また、特別な支援を必要とする児童生徒の教育的ニーズに対応した支援ができるように少人数指導のための特別教員や特別支援教育補助教員等を適切に配置することができました。

今後も学習支援の環境の充実と、個に応じた適切な支援を図っていきます。

○小中学校（全13校）における、特別支援教育補助教員等の配置数

No.	点検・評価項目	内 容	R1	R2
1	少人数指導特別教員の配置	少人数授業の指導を行うために市費で任用	21名	21名
2	特別支援教育介助員・特別支援教育支援員の配置	肢体不自由な児童生徒の介助や特別な支援を要する児童生徒の学習活動上の支援等を行うために市費で任用	25名	28名
3	特別支援教育補助教員の配置	通常学級に在籍している特別な支援を要する児童生徒の学習支援を行うために市費で任用	13名	10名

次に示すのは、各小中学校で行われた、教育課程実施状況及び教育課程編成状況調査結果（No. 1～No. 4）全国学力・学習状況調査における児童生徒質問紙の結果（NO. 5～NO. 8）を集計し、学校の取組、児童生徒の学習状況等について、令和元年度と令和2年度を比較したものです。

各小中学校の教育課程実施状況等の結果（No. 1～No. 4）からは、学習の場の設定と指導方法の工夫が積極的に図られていることが伺えます。具体的には、「基礎基本の定着を図る学習」や、学習した内容の未消化部分をなくすための「補充学習」が全ての学校において実施されています。また、「発展学習」にも1校を除く全ての学校が取組んでおり、身につけた基礎的な知識や技能を活用して、思考力・判断力・表現力を育てる学習が実施できているものととらえます。さらに、「きめ細かな指導の実施」については、全ての学校で個の課題や習熟度に応じた分割授業や複数の教員が協働的に指導するティームティーチング授業が、ねらいに応じて展開されていることが読み取れます。

次に、全国学力・学習状況調査における児童生徒質問紙の結果（NO. 5～NO. 8）では、令和2年度は新型コロナウイルス感染症対策として学校が臨時休業となったため、実施されませんでした。そのため、その結果に基づいた評価をすることができません。

しかし、「食習慣の安定」・「自己肯定感」・「家庭での学習習慣」及び「読書活動」については、学力との相関がある項目であると捉え、今後もこれらの項目について、改善を図っていく必要があります。

以上のような調査結果から、学習支援環境充実のための人的配置の継続及び効果的

な活用と、児童生徒の実態に応じたきめ細かな指導を今後も強化していくことが肝要であると考えます。

○小学校 8校 *学校・児童質問紙から ()は令和元年度の国・県の平均値

No.	点検・評価項目	内 容	R1	R2
1	基礎基本の定着	基礎的、基本的な知識や技能の徹底を図る時間を設定している学校	8校	8校
2	補充学習の指導	教科の学習時間に補充学習を行っている学校	8校	8校
3	発展学習の指導	教科の学習時間に発展学習を行っている学校	8校	8校
4	きめ細かな指導の実施	少人数指導（チームティーチングを含む）を行った学校	8校	8校
	内訳：分割授業	課題別・習熟度別に分割授業を行った学校	8校	8校
	内訳：非分割授業	学習集団を分けずに、チームティーチングによる授業を行った学校	8校	8校
5	食習慣の安定	朝食を毎日食べている児童 (国 95.3%、県 93.3%)	91.3%	
6	自己肯定感	自分にはよい所があると思う児童 (国 81.2%、県 80.3%)	77.3%	
7	家庭での学習習慣	家で学校の宿題をしている児童 (国 97.1%、県 96.9%) ※H30年度		
8	読書の習慣	家や図書館で全く読書をしない児童 (国 18.7%、県 21.0%)	23.1%	

○中学校 5校

()は令和元年度の国・県の平均値

No.	点検・評価項目	内 容	R1	R2
1	基礎基本の定着	基礎的、基本的な知識や技能の徹底を図る時間を設定している学校	5校	5校
2	補充学習の指導	教科の学習時間に補充学習を行っている学校	5校	5校
3	発展学習の指導	教科の学習時間に発展学習を行っている学校	4校	4校
4	きめ細かな指導の実施	少人数指導（チームティーチングを含む）を行った学校	5校	5校
	内訳：分割授業	課題別・習熟度別に分割授業を行った学校	5校	5校
	内訳：非分割授業	学習集団を分けずに、チームティーチングによる授業を行った学校	5校	5校
5	食習慣の安定	朝食を毎日食べている生徒 (国 93.1%、県 91.8%)	88.0%	
6	自己肯定感	自分にはよい所があると思う生徒 (国 74.1%、県 73.2%)	71.1%	
7	家庭での学習習慣	家で学校の宿題をしている生徒 (国 91.6%、県 92.8%) ※H30年度		
8	読書の習慣	家や図書館で全く読書をしない生徒 (国 34.8%、県 39.2%)	48.4%	

4. 事業別評価結果

■主要施策1 少人数指導等による学力向上

施策の内容	番号	事業名	A	B	C	D
(1) 確かな学力向上のための取組の推進	1	少人数指導推進事業	○			
	2	学力検証事業	○			
	3	嘉麻市学力向上強化プロジェクト事業	○			
	4	研究指定校補助事業	○			

■主要施策2 個性又は能力を育成する学校教育の充実

施策の内容	番号	事業名	A	B	C	D
(1) 子どものニーズに応じる教育の充実	5	特別支援教育総合推進事業	○			
	6	補助教員配置事業	○			
(2) 社会の変化に対応する教育の充実	7	英語コミュニケーション能力の育成事業	○			
	8	情報教育推進事業	○			
	9	情報教育施設整備事業	○			
	10	人と自然が共存する環境教育の推進事業	○			
(3) 信頼される教員の確保と研修の充実	11	嘉麻市教育研究所研修推進事業	○			
(4) 安心して学べる学校づくりの推進	12	学校防犯体制整備事業	○			
	13	通学対策事業	○			
(5) 学校施設整備の推進	14	学校施設維持管理業務事業	○			
	15	大隈城山校維持管理事業	○			
	16	学校施設整備事業	○			
(6) 地域に開かれた学校づくりの推進	17	学校関係者評価事業	○			
	18	学校開放事務事業	○			
(7) 小中連携教育への取組	19	小中連携教育推進事業	○			
	20	小中連携・一貫教育研究事業	○			
(8) 教育の機会均等の促進	21	就学援助事業	○			
	22	奨学金事業		○		

■主要施策3 豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進

施策の内容	番号	事業名	A	B	C	D
(1) 道徳性と自立心を養う心の教育の充実	23	道徳教育推進事業	○			
	24	キャリア教育推進事業	○			
	25	ボランティア活動推進事業		○		
(2) 健やかな心身をはぐくむ健康教育の充実	26	学校保健事業		○		
	27	学校給食運営事業	○			
	28	学校給食費算定及び収納事業	○			
(3) 家庭・地域・学校における読書活動推進	29	読書活動推進事業		○		
(4) いじめ・不登校問題等の解決に向けた体制の充実	30	適応指導教室(れすとぴあ)推進事業	○			
	31	教育相談推進事業	○			
	32	学校支援相談員配置事業		○		
(5) 家庭・地域の教育力を高める支援体制の充実	33	地域教育資源・人材活用事業		○		
	34	学校と地域が連携して子どもを育む事業		○		
	35	家庭教育支援事業	○			
	36	青少年健全育成事業	○			
(6) 男女共同参画教育の推進	37	学校における男女共同参画推進事業	○			
	38	地域社会における男女共同参画推進事業		○		

■主要施策4 生涯学習の実現を目指す社会教育の推進

施策の内容	番号	事業名	A	B	C	D
(1) 生涯学習関係機関、団体との連携・協力体制の整備	39	社会教育関係団体等育成事業		○		
(2) 学習機会の提供及び学習成果の活用促進	40	社会教育施設整備事業		○		
	41	生涯学習推進事業		○		
	42	青少年体験活動推進事業		○		
	43	公立公民館・自治公民館連携強化推進事業		○		
	44	公民館活動活性化推進事業		○		
(3) 図書館の利用促進	45	図書館施設管理運営事業	○			
	46	読書活動推進事業		○		
	47	図書ボランティア養成及び活動支援事業		○		

■主要施策5 体力及び運動能力向上の推進

施策の内容	番号	事業名	A	B	C	D
(1) スポーツによる地域の活性化	48	スポーツコミュニティ創造事業	○			
	49	スポーツ大会誘致・スポーツ大会支援事業		○		
(2) スポーツ環境の整備	50	スポーツ環境創成事業		○		
	51	社会体育施設管理運営事業	○			
(3) 生涯スポーツの推進	52	プロジェクトK事業	○			
(4) 競技スポーツの推進	53	競技スポーツ推進事業		○		

■主要施策6 人権尊重精神を育成する教育の推進

施策の内容	番号	事業名	A	B	C	D
(1) 学校教育における人権・同和教育の推進及び支援	54	人権・同和教育推進事業		○		
(2) 社会教育における人権・同和教育の推進及び支援	55	人権・同和教育推進事業		○		
	56	人権・同和教育推進少年団体育成事業		○		
	57	人権・同和教育推進団体育成事業		○		

■重要課題7 市民文化の創造

施策の内容	番号	事業名	A	B	C	D
(1) 美術に関する創造的活動の推進	58	文化芸術活動推進事業		○		
	59	美術館運営管理事業	○			
	60	企画展事業		○		
	61	美術教育普及事業		○		
(2) 文化財の保護・継承・活用	62	郷土の歴史文化を守る事業	○			
	63	郷土の歴史文化を伝える事業	○			
	64	郷土の歴史文化拠点施設活用事業		○		

☆点検評価表の見方☆

事業名 (予算/決算)	[番号] 事業名 (課 : 係) (予算 : 千円 / 決算 : 千円)																				
目的	事業の目的について記載しています。																				
事業内容	令和2年度に実施した事業について記載しています。																				
令和2年度の課題と取組	<p>【課題等】 令和2年度の課題としてあげた事項等を記載しています。</p> <p>【課題等への取組み】 上記の課題について、どのような取組を行ったかを記載しています。</p>																				
事務局 自己評価	<table border="1"> <thead> <tr> <th>【評価項目】</th> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>事業の必要性</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>事業の効果</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>事業の効率性</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	【評価項目】	A	B	C	D	事業の必要性					事業の効果					事業の効率性				
	【評価項目】	A	B	C	D																
	事業の必要性																				
	事業の効果																				
事業の効率性																					
<p>【自己評価の根拠】 自己評価に至った理由について記載しています。 また、評価の指標は次のとおりです。 A : 期待どおり B : 概ね期待どおり C : 課題あり D : 事業の見直し要</p>																					
今後の方向性	この事業の目的を達成するための方向性について記載しています。																				
令和3年度の課題	令和3年度の課題について記載しています。																				
<p>【評価委員の意見】 点検評価委員会議でいただいた委員の意見を記載しています。</p>																					
<table border="1"> <tr> <td rowspan="2" style="font-size: 1.2em;">教育委員会評価</td> <td style="text-align: center;">今回</td> <td style="text-align: center;">※</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">(前回)</td> <td style="text-align: center;">(※)</td> </tr> </table>		教育委員会評価	今回	※	(前回)	(※)															
教育委員会評価	今回		※																		
	(前回)	(※)																			

A : 期待どおり、B : 概ね期待どおり、C : 課題あり、D : 事業の見直し要

※点検評価委員の意見を踏まえ、教育委員会で評価しました。

■主要施策 1 少人数指導等による学力向上

(1) 確かな学力の向上のための取組の推進

事業名 (予算/決算)	[1] 少人数指導推進事業 (学校教育課：教務係) (予算：125,019千円 / 決算：124,205千円)				
目的	少人数指導(1学級を30人以下の児童又は生徒で編制する等の指導形態をいう。)により、より個に応じた指導を行うことによって、生徒指導の充実、学力を向上させるよう努めます。				
事業内容	小学校15名、中学校6名の少人数指導特別教員を配置し、小中学校の少人数指導を推進しています。				
令和2年度の課題と取組	<p>【課題等】 主幹教諭研修会において、個に応じた指導の充実と児童生徒理解の深化を図るために、児童生徒の実態に応じた習熟度別指導の指導形態を提示し、形成的評価をもとにした習熟度別指導の推進を図ります。</p> <p>【課題等への取組】 主幹教諭研修会において、個に応じた指導の充実と児童生徒理解の深化を図るために、少人数での一斉授業に加え、単元終末段階における形成的評価をもとにした習熟度別指導の指導形態や指導方法を提示し、各学校の取組を交流する場を設定しました。</p>				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性		○		
	<p>【自己評価の根拠】 小学校のNRT検査(令和2年度実施分)の結果、中学校は標準学力分析検査(令和3年4月実施)の目標値(小学校：54中学校：50)に対して、小学校は50.9(-3.1)、中学校は47.1(-2.9)と目標値を達成することができませんでした。その要因は、小中学校とも基礎的・基本的な知識及び技能を定着させる指導が不十分であること、思考力を発揮させ最善解を導き出す書く力を育て切れていないことが考えられます。</p> <p>そのような中、基本的な知識及び技能を定着させるための個に応じたきめ細かな指導である習熟度別指導については、「よく取り組んだ」「だいたい取り組んだ」が小学校では7校中6校、中学校では5校中4校に増え、単元終末段階における形成的評価をもとにした習熟度別指導の推進を図ることができつつあります。</p>				
今後の方向性	少人数指導により、個に応じたきめ細かな指導をさらに充実させます。学力の向上はもとより、児童生徒一人ひとりに向き合う時間を確保し、安心・安全な学習環境を提供します。				
令和3年度の課題	主幹教諭研修会において、個に応じた指導の充実を図るために、形成的評価をもとにした習熟度別指導の充実と思考を伴う書く活動の徹底を図ります。				
	<p>【評価委員の意見】 ある程度成果は出ていますが、ここ数年は横ばい状態ということは、何らかの内容や考え方を变えることも必要ではないでしょうか。</p>				
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(A)		

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策 1 少人数指導等による学力向上

(1) 確かな学力の向上のための取組の推進

事業名 (予算/決算)	[2] 学力検証事業 (学校教育課：教務係) (予算：7,953千円 / 決算：7,411千円)				
目的	児童生徒の実態を把握・分析し、課題を明らかにして学校内の組織的な取組みの改善を図り、自ら学び考えるなどの確かな学力を育む教育の充実を図ります。				
事業内容	各種学力検査の結果を分析し、実効性のあるプランと各校のPDCAサイクルを確立します。				
令和2年度の課題と取組	<p>【課題等】 主幹教諭研修会において、重点的な指導の方向性を提示するとともに、学力向上の具体策を各学校の各学級まで浸透・徹底させるためのマネジメントについて演習・協議・指導助言を行います。また、学力向上の具体策に基づいた授業に改善していくよう指導助言を行います。</p> <p>【課題等への取組】 主幹教諭研修会において、重点取組の浸透・徹底のために、「嘉麻市学力向上全体構想」をもとに重点取組の内容や方法を説明し、学力向上に向けたマネジメントを共有する場や振り返りの場を設定しました。</p>				
事務局自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性		○		
<p>【自己評価の根拠】 小学校における標準学力検査NRTの結果は、6年連続して標準偏差値50を超えているものの、目標値(54)に対して、50.9と目標値を達成することはできませんでした。また、中学校における標準学力調査の目標値(50)に対して、47.1と目標値を達成することはできませんでした。また、小学校アンダーアチーバーの目標値(0%以下)に対して、15%と目標値を達成することができませんでした。その要因は、新型コロナウイルス感染拡大に伴う臨時休業や小中学校とも授業改善へのPDCAサイクルが不十分であったことが考えられます。</p>					
今後の方向性	各種調査結果をもとに、児童生徒の学力実態を分析するとともに課題を明らかにして、学校内の組織的な取組の改善を図ります。そのために、主幹教諭研修会において、重点的な指導の方向性を明確に提示し、学力向上の具体策がより具現化されるためのPDCAサイクルを推進します。				
令和3年度の課題	主幹教諭研修会において、重点取組の内容や方法を提示するとともに、学習評価からの授業改善を図ることができるよう指導助言を行います。				
<p>【評価委員の意見】 研修会で習ったことを、きちんと伝えることができていないのではないのでしょうか。新たにプラスする部分も含めて、きちんと伝えてもらいたい。</p>					
教育委員会評価		今回		A	
		(前回)		(A)	

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策 1 少人数指導等による学力向上

(1) 確かな学力の向上のための取組の推進

事業名 (予算/決算)	[3] 嘉麻市学力向上強化プロジェクト事業 (学校教育課：教務係) (予算：27,307千円 / 決算：20,141千円)				
目的	学校への指導及び支援体制をより強化し、学校の組織体制を確立するとともに、嘉麻市土曜未来塾において、基礎基本の学力の定着、家庭学習の習慣化を図り、学力の向上に努めます。				
事業内容	嘉麻市土曜未来塾を市内8箇所において、47人の学習サポーターを活用し、実施しました。また、学力向上推進員(教職員OB)が学校を訪問した際、土曜未来塾の広報及び成果の情報収集を行いました。				
令和2年度の課題と取組	【課題等】 嘉麻市土曜未来塾への参加状況について学校間の格差があるため、目的や価値を含めた事業広報を進めるとともに、今後も関係各課と連携し、生活困窮家庭の児童生徒を含め更なる参加を促します。また、ヒアリングを通して、学校外補習事業との関連についても指導していきます。 【課題等への取組】 嘉麻市土曜未来塾は、関係各課と連携し、生活困窮家庭の児童生徒の参加を促しました。また、学校外補習事業も11校とも計画的に推進していきました。家庭へのアンケートを実施し、家庭学習の習慣化に向けた検討を行いました。				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性		○		
【自己評価の根拠】 新型コロナ感染拡大防止の観点から嘉麻市土曜未来塾の開催が11月からになるとともに参加対象を小学校6年と中学校3年に人数制限しましたが令和2年度は116人の参加がありました。保護者からの「自宅で勉強する習慣がついた」等のアンケート結果からも家庭学習の習慣化ができてつつあります。しかし、家庭学習の目標時間達成率(小学校)100%の目標値に対して89.1%、家庭学習の目標時間達成率(中学校)100%の目標値に対して56.3%、土日の家庭学習時間ゼロの児童生徒0%以下の目標値に対して4.6%と、目標値を達成することはできませんでした。その要因は、各学校の「家庭学習のすすめ」の指導の徹底不足や個に応じた課題提示ができていないと考えられます。学校外補習事業については、学校の実態に応じた取組が推進されました。					
今後の方向性	嘉麻市土曜未来塾への参加状況について、まだまだ学校間の格差があるため、今後も更なる事業広報と成果の分析を進めるとともに、学校外補習学習事業との関連も含め、学校教育と放課後等の学習活動を連続して捉えた学力向上の方策を検討していきます。				
令和3年度の課題	今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、対象を小学校5・6年、中学校3年の児童生徒を中心に取組を進めます。				
【評価委員の意見】 意見はありませんでした。					
教育委員会評価		今回		A	
		(前回)		(A)	

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策 1 少人数指導等による学力向上

(1) 確かな学力の向上のための取組の推進

事業名 (予算/決算)	[4] 研究指定校補助事業 (学校教育課：教務係) (予算：1,400千円 / 決算：1,400千円)				
目的	研究指定事業を通して、教職員の実践的指導力の向上を図るとともに、一人ひとりの資質の向上に向けた研修等への参加支援体制の整備を図ります。				
事業内容	研究指定校を3ヶ年事業として、毎年中学校区単位で委嘱し、3年次に研究発表を行います。令和2年度は、3年目の稲築西小、稲築中学校が研究成果を広める発表会を実施しました。研究2年目が、碓井小、碓井中学校、1年目が熊ヶ畑小、上山田小、下山田小、山田中学校でした。				
令和2年度の課題と取組	<p>【課題等】 嘉麻市の教育課題を解決していくために、校区としての課題や目標を明らかにし、小中9年間をつなぐ学びを目指します。特に、学習スタンダード、学習規律、家庭学習についての指導の在り方を共有しながら、組織的に取組を行うことができるよう指導・支援します。</p> <p>【課題等への取組】 研究発表会の分科会においては、組織的な取組を推進するために、小中連携教育推進部会を設定しそれぞれの校区の課題や課題解決に向けた取組を共有する場を設定し、取組について指導助言を行いました。</p>				
事務局自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性	○			
今後の方向性	<p>【自己評価の根拠】 研究発表校数2校の目標値に対して、2校とも研究発表会をオンライン形式で実施することができました。また、研究発表会において小中連携教育推進部会を設定したことで、各中学校区における小中連携の強化を図ることができました。特に稲築中学校区では、3ヶ年次の研究発表に向けて、校区の課題を明確にし、主体的な学びへの具現化を図るような話し合いを持ち、取組を進めることができました。</p>				
今後の方向性	本事業は、学力向上等校区の課題解消を目指し、協働して組織的に児童生徒を教育する良い機会です。今後も、校区における小中9年間をつなぐ取組と小中の連携を強化し、組織的に研修を進めていく必要があります。				
令和3年度の課題	嘉麻市の教育課題を解決していくために、校区としての課題や目標を明らかにし、小中9年間をつなぐ学びを目指します。特に、小中共通の取組を明らかにさせ、組織的に推進できるよう指導助言を行います。				
<p>【評価委員の意見】 意見はありませんでした。</p>					
教育委員会評価		今回		A	
		(前回)		(A)	

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策2 個性又は能力を育成する学校教育の充実

(1) 子どものニーズに応じる教育の充実

<p>事業名 (予算/決算)</p>	<p>[5] 特別支援教育総合推進事業 (学校教育課：教務係) ※子育て支援課：発達支援連携協議会事業費にて小学校分を予算化 (予算：3,402千円 / 決算：2,968千円)</p>				
<p>目的</p>	<p>保育所(園)・幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校における特別支援教育を総合的に推進することです。</p>				
<p>事業内容</p>	<p>巡回相談や個別の教育相談の実施等、発達障がいを含む障がいのある幼児児童生徒を支援しました。</p>				
<p>令和2年度の課題と取組</p>	<p>【課題等】 切れ目のない個に応じた支援を行うことができるように、幼小中高の特別支援教育コーディネーターとの情報共有や各種関係機関内の連携を図るとともに、巡回相談の実施による個別の教育支援計画等の充実や特別支援教育に係る共通理解を進めます。また、専門性を高める研修も引き続き実施していきます。</p> <p>【課題等への取組】 新型コロナウイルス感染症拡大防止のために、特別支援教育コーディネーター一連絡会の第1回目は会議を実施することができませんでしたが、各学校に校種間及び各種関係機関と継続して連携を図るように通知を行いました。</p>				
<p>事務局 自己評価</p>	<p>【評価項目】</p>	<p>A</p>	<p>B</p>	<p>C</p>	<p>D</p>
	<p>事業の必要性</p>	<p>○</p>			
	<p>事業の効果</p>	<p>○</p>			
	<p>事業の効率性</p>	<p>○</p>			
<p>【自己評価の根拠】 発達支援連携協議会については、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため書面上での情報共有となりましたが、年2回の協議を実施することができました。特別支援教育コーディネーター連絡会についても、特別支援教育の現状と課題について協議を図り、専門的資質能力向上中心の研修を行うことができました。</p>					
<p>今後の方向性</p>	<p>特別支援を要する幼児・児童の早期発見・早期対応に努め、一貫した継続性のある支援に向けて巡回相談の充実や子育て支援課の就学相談窓口の機能化を図ります。また、子育て支援課及び関係機関との連携を密にし、合理的配慮の提供を充実させます。</p>				
<p>令和3年度の課題</p>	<p>切れ目のない個に応じた支援を行うことができるように、幼小中高の特別支援教育コーディネーターとの情報共有や各種関係機関内の連携を図るとともに、巡回相談の実施による個別の教育支援計画等の充実や特別支援教育に係る共通理解を進めます。また、専門性を高める研修も引き続き実施していきます。</p>				
<p>【評価委員の意見】 意見はありませんでした。</p>					
<p>教育委員会評価</p>		<p>今回</p>		<p>A</p>	
		<p>(前回)</p>		<p>(A)</p>	

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策2 個性又は能力を育成する学校教育の充実

(1) 子どものニーズに応じる教育の充実

事業名 (予算/決算)	[6] 補助教員配置事業 (学校教育課：教務係) (予算：80,355千円 / 決算：77,537千円)				
目的	特別支援教育充実のための補助教員、介助員、支援員を配置し、一人ひとりのニーズに応じた教育条件の整備を図ります。				
事業内容	補助教員、介助員、特別支援学級支援員を配置し、一人ひとりのニーズに応じた特別支援教育を行いました。				
令和2年度の課題と取組	<p>【課題等】 特別な支援を要する児童生徒に対して、配置基準に基づいた補助教員等を適切に配置していきます。</p> <p>【課題等への取組】 教育的ニーズに対応するため、補助教員、介助員、支援員を配置しました。支援を充実させるために嘉麻市教育研究所主管で補助教員、介助員、支援員を対象に研修会を実施しました。合理的な配慮が適切に提供できるよう個別の指導計画に基づく支援の提供について指導助言を行ってきました。</p>				
事務局自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性	○			
<p>【自己評価の根拠】 特別支援教育支援員27名、介助員1名を配置し、目標値(基準に基づく配置数)を配置することができました。補助教員についても、目標とする配置数10名を配置することができました。 また、嘉麻市教育研究所主管で、「特別な支援が必要な児童生徒との関わり方」について、研修会を実施し、その研修会受講者アンケートでは、内容が「大変良かった」「良かった」と回答した参加者の割合が96%でした。このことは、研修参加者が一定の理解を図ることができたものと考えます。</p>					
今後の方向性	補助教員等の配置により、教育的ニーズに対応した支援ができています。このことは、特別な支援を必要としない児童生徒との良好な人間関係づくりにも役立っています。今後もインクルーシブ教育システムの構築に向け、適切な配置及び支援ができるように努めていきます。				
令和3年度の課題	特別支援教育支援員、介助員、補助教員を配置し、児童生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた適切な指導、支援を行います。また、特別支援教育支援員等が、特別な支援が必要な児童生徒に、適切な対応ができるようにするための効果的な研修を実施します。				
<p>【評価委員の意見】 意見はありませんでした。</p>					
教育委員会評価		今回		A	
		(前回)		(A)	

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策2 個性又は能力を育成する学校教育の充実

(2) 社会の変化に対応する教育の充実

事業名 (予算/決算)	[7] 英語コミュニケーション能力の育成事業 (学校教育課：教務係) (予算：24,058千円 / 決算：23,238千円)				
目的	言語や文化についての体験的理解を深め、英語によるコミュニケーション能力を養い国際感覚を身に付けさせることです。				
事業内容	国際的な共通語として、英語によるコミュニケーション能力の育成や文化についての体験的理解を深めることを目的として、ALT (外国語指導助手) やオンライン英会話の活用による外国語活動の充実を図ります。				
令和2年度の課題と取組	<p>【課題等】 オンライン英会話を活用した外国語活動や外国語科のカリキュラム作成、ALTの効果的な活用場面や方法についての研修を実施していきます。</p> <p>【課題等への取組】 学校に対して学期末に行ったアンケートをもとに、契約先と授業改善に向けた協議を行いました。また、小学4年生を対象にオンライン英会話(3人グループ)を3回実施しました。さらに、嘉穂中学校をモデル校として、オンライン英会話(マンツーマン)の実施に向けた取組みを推進しました。</p>				
事務局自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性		○		
【自己評価の根拠】 ALT配置数5人の目標値に対して、ALTを各中学校区に1名配置(5人配置)し、小中学校における外国語教育の充実を図ることができました。ALTとのTT(チームティーチング)による授業により、楽しく学べる授業づくりができています。また、今年度より小学4年生を対象にオンライン英会話(3人グループレッスン)を3回実施し、中学校でも試験的にオンライン英会話(マンツーマンレッスン)を実施しました。					
今後の方向性	英語によるコミュニケーション能力の育成や文化についての理解を深めるため、外国語指導助手(ALT)による外国語活動やオンライン英会話を推進します。また、小学校へ英語専科指導教員を配置し、外国語科の充実を図ります。				
令和3年度の課題	オンライン英会話を活用した外国語活動や外国語科のカリキュラム作成、ALTの効果的な活用場面や方法についての研修を実施し、小学校へ英語専科指導教員を配置していきます。				
【評価委員の意見】 小学生の英語授業で、タブレットを利用して、ALTも上手く活用していただきたいと思えます。					
教育委員会評価	今回		A		
	(前回)		(A)		

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策2 個性又は能力を育成する学校教育の充実

(2) 社会の変化に対応する教育の充実

事業名 (予算/決算)	[8] 情報教育推進事業 (学校教育課：教務係) (予算：4,209千円 / 決算：3,917千円)				
目的	児童生徒がコンピューターや情報通信ネットワークなどの情報手段を積極的かつ適切に活用できるようにするため、情報教育の充実を図ります。				
事業内容	嘉麻市教育研究所に情報教育推進ICT支援員2名を配置し、児童生徒の発達段階に応じた情報活用能力の育成、情報モラル教育を行います。				
令和2年度の課題と取組	<p>【課題等】 新学習指導要領におけるプログラミング教育に関する研修会が必要です。また情報教育推進協議会を活性化させるとともに、学校ホームページに対する情報教育推進ICT支援員の支援の在り方を見直し、学校ホームページの更新が適切に行われるよう支援を行います。</p> <p>【課題等への取組】 10月より情報教育推進ICT支援員2名を増員し、ICTを活用した授業改善支援及び校務の情報化を推進しました。また、学校ホームページに関する支援を通して、学校ホームページ更新のスキルアップ等の支援をしました。</p>				
事務局自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性		○		
今後の方向性	<p>【自己評価の根拠】 教職員に向けた研修について、情報教育研修会は中止となりましたが、コロナ禍の緊急課題として Web 会議システムの活用について全ての学校で研修を行いました(全26回)。情報教育推進協議会は紙面開催(2回)としました。情報教育支援について、プログラミング教育に重点をおいた支援を行い、市内教職員の情報活用能力の向上につながる授業改善意識を高めることができました。また、学校ホームページ更新のスキルアップのための支援を必要に応じて行うことができました。</p>				
	<p>引き続き、児童生徒の情報活用能力向上のための授業づくりにつながる研修の実施と支援が必要です。学校ホームページの適切な運営に向けた支援を行い、市民に対する学校情報の公開をさらに進める必要があります。また、児童生徒1人1台学習端末(カスタ)の導入に連動し、研修の充実が必要です。</p>				
令和3年度の課題	<p>児童生徒1人1台学習端末(カスタ)の導入が行われていきますので、その活用についての教職員研修会が必要です。ICT支援員による端末管理の仕組みを構築するとともに、授業支援の在り方を見直し、ICTを活用した授業が積極的に行われるよう支援を行います。</p>				
<p>【評価委員の意見】 意見はありませんでした。</p>					
教育委員会評価		今回		A	
		(前回)		(A)	

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策2 個性又は能力を育成する学校教育の充実

(2) 社会の変化に対応する教育の充実

事業名 (予算/決算)	[9] 情報教育施設整備事業 (教育総務課：管理係) (予算：52,802千円 / 決算：52,042千円)				
目的	コンピューターや情報通信ネットワークなどの情報手段を積極的かつ適切に活用できるように、情報教育を行うための情報機器の整備・維持管理を図ります。				
事業内容	市内小・中・高等学校(14校)のPC教室、校務用PCのリース及びPC教室、校務用PC、教育用PCの保守を行い、情報教育の充実を図ります。				
令和2年度の課題と取組	<p>【課題等】 GIGAスクール構想に伴う情報通信ネットワーク整備と併せて、サーバー、校務用PC及びPC教室のリプレイスを実施するため、円滑な事業遂行に向けスケジュール管理や学校との調整が必要です。</p> <p>【課題等への取組】 令和2年度については、予定通りサーバー、校務用PCのリプレイスを実施しました。</p>				
事務局自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性	○			
今後の方向性	<p>【自己評価の根拠】 令和2年度については、予定していた情報機器のリプレイスを実施し、教育環境の改善に努めることができました。</p> <p>情報通信ネットワーク環境の整備により、これまでの情報教育からさらに高度な情報教育の実現が想定されます。今後、変化していく授業形態に対応すべく、教育現場や学校教育課とのコンセンサスを図りながら、教育ニーズに合った情報機器整備の実現を目指します。</p>				
令和3年度の課題	令和3年度については、PC教室のリプレイスを実施するため、円滑な事業遂行に向けたスケジュール管理や学校との調整が必要です。				
【評価委員の意見】	意見はありませんでした。				
教育委員会評価		今回		A	
		(前回)		(A)	

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策2 個性又は能力を育成する学校教育の充実

(2) 社会の変化に対応する教育の充実

事業名 (予算/決算)	[10] 人と自然が共存する環境教育の推進事業 (学校教育課：教務係) (予算： - / 決算： -)				
目的	身近な環境や環境問題に興味、関心を持ち、人間活動と環境の関わりについて総合的な理解と認識を育成します。また、環境の保全に配慮した望ましい働きかけのできる技術や思考力、判断力を身に付け、よりよい環境の創造活動に主体的に参加し、環境に対し責任ある行動を取る能力を育成します。				
事業内容	郷土を愛する心を育てるため、小中学校で体験活動を重視した地域の良さに気づき、その環境に触れる教育を推進します。				
令和2年度の課題と取組	【課題等】 身近な環境や環境問題に興味、関心を持ち、地域の「ひと・もの・こと」を活かし、地域に働きかける授業づくりや地域の「ひと・もの・こと」をつなぐ「郷土を愛する」カリキュラムづくりを進めます。 【課題等への取組】 主幹教諭研修会において、「郷土を愛する人材」を育成するためのカリキュラム・マネジメントや児童生徒が地域に愛着をもつための方法論について指導助言を行いました。また、「ふるさと学習教材集」の作成に取り組みました。				
事務局自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性		○		
【自己評価の根拠】 小中学校での環境教育における体験的活動実施の目標値に対して、総合的な学習や社会科、理科を中心としながら実施ができました。小中学校とも、各教科の年間指導計画に「地域連携」の枠を設け、地域の「ひと・もの・こと」を活用したカリキュラムづくりや授業実践が行われるようにしました。このような各学校の取組を「ふるさと学習教材集」としてまとめ各学校へ配付しました。 また、環境課と連携し、市内小学生のポスターを看板にして設置する等の取組を継続しました。					
今後の方向性	嘉麻市の自然環境に触れ、郷土に愛着を持ち、嘉麻市に定住する、または、一旦は嘉麻市を離れても将来戻ってくる人材を育成します。				
令和3年度の課題	身近な環境や環境問題に興味、関心を持ち、地域の「ひと・もの・こと」をつなぐ「郷土を愛する」カリキュラムづくりや学習展開モデルについて指導助言を行います。また、「ふるさと学習教材集」の付加修正に取り組みます。				
【評価委員の意見】 嘉麻市の良さがわかって、愛着が持てるように、将来的には帰ってきてほしいということですね。					
教育委員会評価		今回		A	
		(前回)		(A)	

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策2 個性又は能力を育成する学校教育の充実

(3) 信頼される教員の確保と研修の充実

事業名 (予算/決算)	[11] 嘉麻市教育研究所研修推進事業 (学校教育課：教務係) (予算：306千円 / 決算：75千円)				
目的	嘉麻市教育研究所を中心に、市の課題に応じた教職員及び教育研究団体等の教育研究を奨励するとともに、若年層の指導技術向上、教職員の資質向上に努めます。				
事業内容	教職員研修、講師等対象研修、専門研修の実施、校内研修等における指導助言を行います。また、教職員の資質向上を目的とした教育論文の応募を推奨します。				
令和2年度の課題と取組	<p>【課題等】 情報教育研修会において、プログラミング教育の在り方や教材活用に関する内容を取り扱い、授業づくりにつながる研修を行います。</p> <p>【課題等への取組】 情報教育研修会は、新型コロナウイルス感染拡大防止により中止となりました。緊急課題対応として Web 会議システム研修を各学校全教職員対象に2回ずつ実施しました。</p>				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性		○		
今後の方向性	新学習指導要領の完全実施により、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業の在り方について指導・支援を行う必要があります。特に、若年教員の指導力向上が急務となっています。				
	新学習指導要領対応研修としてプログラミング教育研修会を実施し、児童生徒の情報活用能力向上につながるプログラミングの活用に重点を置いた授業改善を図る必要があります。また、教育論文作成では、自由研究に加え、課題研究(情報)の支援を行うとともに、若年教員の指導力向上を目指した指導・支援が必要です。				
【評価委員の意見】	意見はありませんでした。				
教育委員会評価	今回		A		
	(前回)		(A)		

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策2 個性又は能力を育成する学校教育の充実

(4) 安心して学べる学校づくりの推進

事業名 (予算/決算)	[12] 学校防犯体制整備事業 (学校教育課：教務係) (予算：9,239千円 / 決算：8,741千円)				
目的	児童生徒の安全管理のため、学校安全に関する取組みの充実を図ります。				
事業内容	学校支援専門員(警察OB)を配置し、警察等関係機関と連携して生徒指導上の支援を行っています。スクールガードリーダーによる校内外の定期的な巡回や見守り、安全マップの作成、防犯メールの配信により、学校の安全体制の整備充実を図りました。				
令和2年度の課題と取組	<p>【課題等】 生徒指導上の諸問題に対応する体制の点検を随時行い、迅速かつ適切な対応が維持できるようにします。また、不審者情報や防犯メールの配信、「通学路安全推進会議」等で地域の防犯意識を高め、児童生徒の安全確保に努めます。 学校においては、学校安全計画や危機管理マニュアルの共通理解を徹底させ、特に不審者の侵入を未然防止するよう指導します。また、学校評議員への防犯メール加入を進めていきます。</p> <p>【課題等への取組】 学校支援専門員が定期的な学校訪問を行い、学校と連携しながら防犯対策等について指導・助言を行いました。また、スクールガードリーダーや地域ボランティアと連携し連携しながら通学路での交通安全指導を行いました。</p>				
事務局自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性	○			
<p>【自己評価の根拠】 学校現場の求めに応じて、学校支援専門員が適切な助言を行うことで、生徒指導上の諸問題について迅速に対応することができました。また、交通安全教室への参加、中学校生徒指導委員会への参加等を通して、学校との連携を深めることができました。さらに、スクールガードリーダーの配置、地域ボランティア、防犯メールの全校実施により、学校防犯体制の整備が進んでいます。 不審者事案については、学校支援専門員が警察と連携して巡回等をして安全確保に努めています。</p>					
今後の方向性	学校と学校支援専門員と警察等関係機関との連携強化を継続し、様々な生徒指導上の問題の対応を進めます。また、今後も「事件・事故の発生件数『0(ゼロ)』!」を目標に、定期的な通学路の安全点検、危険箇所の改善要望の継続、防犯メール等による不審者事案への早期対応を行い、児童生徒の登下校の安全確保に努めます。				
令和3年度の課題	生徒指導上の諸問題に対応する体制の点検を随時行います。また、不審者情報や防犯メールの配信、「通学路安全推進会議」等で防犯意識を高めます。 学校においては、学校安全計画や危機管理マニュアルの共通理解を徹底させ、特に不審者の侵入を未然防止するよう指導します。また、学校評議員や未登録者(保護者)への防犯メール加入を進めていきます。				
【評価委員の意見】					
学校支援専門員やスクールガードリーダーを配置されていることがわかりました。					
教育委員会評価		今回		A	
		(前回)		(A)	

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策2 個性又は能力を育成する学校教育の充実

(4) 安心して学べる学校づくりの推進

事業名 (予算/決算)	[13] 通学対策事業 (学校教育課：教務係) (予算：49,063千円 / 決算：43,067千円)				
目的	学校の統廃合に伴い、遠距離通学することになった児童生徒の通学費の負担を軽減します。また、市内小・中学校通学路の安全を確保します。				
事業内容	遠距離通学をする児童生徒の通学費の負担を軽減するため、通学費の補助、スクールバスの運行を行っています。また、通学路の安全を確保するため、嘉麻市通学路安全推進会議を開催し、点検及び対策を講じています。				
令和2年度の課題と取組	<p>【課題等】 嘉穂小・中学校のスクールバス運行について、引き続き学校、PTA、保護者及びバス運行委託業者と協議を行い、実情に応じた見直し等を行う必要があります。通学路の安全確保については、通学路安全推進会議を実施し、令和2年度実施予定の合同点検の内容を報告・協議した後、その対策を講じる必要があります。</p> <p>【課題等への取組】 バスの定期券の購入費用の補助、スクールバス運行による児童生徒の送迎を実施しました。通学路等について、学校、PTA、及び関係機関と連携し合同点検を実施しました。嘉麻市通学路安全推進会議を開催し、対策箇所の確認を実施しました。</p>				
事務局自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性	○			
【自己評価の根拠】 稲築西小学校に通学する児童のうち、遠距離通学している児童のバス定期券の購入費用の補助を100%実施することができました。また、嘉穂中学校及び嘉穂小学校でスクールバスを運行し、遠距離通学となる児童生徒の送迎を行いました。新たに宮野地区・足白地区の中学生のスクールバス利用（登校便）を実施しました。					
今後の方向性	今後も遠距離通学をする児童生徒のバス定期券購入費用の補助を100%実施します。スクールバスについては、その運用方法について継続して協議して見直し等を行っていきます。また、通学路の安全確保について、定期的に点検、対策の実施というサイクルで行っていきます。				
令和3年度の課題	嘉穂小・中学校のスクールバス運行について、引き続き学校、PTA、保護者及びバス運行委託業者と協議を行い、実情に応じた見直し等を行う必要があります。通学路の安全確保については、通学路安全推進会議を実施し、令和2年度実施の合同点検の内容を報告・協議した後、その対策を講じる必要があります。				
【評価委員の意見】 宮野・足白地区の中学生が利用できたことは良いことだと思います。通学路の危険箇所の改善をお願いします。					
教育委員会評価		今回		A	
		(前回)		(A)	

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策2 個性又は能力を育成する学校教育の充実

(5) 学校施設整備の推進

事業名 (予算/決算)	[14] 学校施設維持管理業務事業 (教育総務課：管理係) (現年予算：268,597千円 / 決算：258,418千円) (繰越予算：144,588千円 / 決算：133,663千円)				
目的	すべての児童生徒が安全・安心な環境において、生活(学習)ができるよう、小中学校の補修、修繕、草刈等環境整備を実施し、施設維持の管理を行います。				
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・市内小中学校13校(小学校8校、中学校5校)の施設整備及び維持管理 ・施設維持管理業務委託(草刈、清掃、樹木剪定、浄化槽維持管理等) 				
令和2年度の課題と取組	<p>【課題等】 上山田小学校他2校のトイレ改修工事、及び小中学校情報通信ネットワーク整備を実施し、児童生徒の教育環境の改善に努めます。</p> <p>【課題等への取組】 上山田小学校他2校のトイレ改修及び小中学校通信ネットワーク整備を実施し、児童生徒の教育環境の改善に努めました。</p>				
事務局自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性	○			
	<p>【自己評価の根拠】 児童、生徒の安全性を確保するため、緊急性を要するものから随時修繕工事等の対応を行いました。また、老朽化した施設の改修工事及びその他の施設管理委託業務においても、快適な施設管理の維持のため適正な予算執行を行いました。</p>				
今後の方向性	引き続き、安全・安心な環境整備及び維持管理を行っていきます。また、老朽化した施設については、計画的に改修を行う必要があります。				
令和3年度の課題	上山田小学校大規模改造工事、山田中学校機械設備工事、小中学校トイレ改修工事等を実施し、児童生徒の教育環境の改善に努めます。				
<p>【評価委員の意見】 座って踏ん張れない子どもが多いと聞きます。もう少し、和式トイレを増やしてもいいのではないのでしょうか。</p>					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(A)		

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策2 個性又は能力を育成する学校教育の充実

(5) 学校施設整備の推進

事業名 (予算/決算)	[15] 大隈城山校維持管理事業 (教育総務課：管理係) (予算：52,257千円 / 決算：24,989千円)				
目的	すべての生徒が安全・安心な環境において生活(学習)ができるよう、校舎等の適切な維持管理を行い、教育環境の整備を図ります。				
事業内容	大隈城山校の施設整備及び維持管理(建築年度：昭和61年度)				
令和2年度の課題と取組	<p>【課題等】 近年の猛暑に対応するため、特別教室についても空調機の設置を行い、生徒の教育環境の改善に努めます。</p> <p>【課題等への取組】 特別教室への空調機の設置を行いました。また、学校と連携を図りながら、適正な予算執行に努めました。</p>				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性	○			
	【自己評価の根拠】 長年の懸案だった普通教室への空調機設置に続き、特別教室へも空調機の設置を行うことができました。併せて適切な学校施設の維持管理を行い、教育環境の改善に努めました。また、維持管理のための適切な予算執行を行いました。				
今後の方向性	生徒が安全・安心な環境で学習に臨めるよう、教育環境の整備を実施します。				
令和3年度の課題	GIGAスクール構想に伴う情報通信ネットワーク整備を実施し、生徒の教育環境の改善に努めます。				
【評価委員の意見】 意見はありませんでした。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(A)		

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策2 個性又は能力を育成する学校教育の充実

(5) 学校施設整備の推進

事業名 (予算/決算)	[16] 学校施設整備事業 (教育総務課：教育企画係) (予算：5,053千円 / 決算：4,530千円)				
目的	学校施設の老朽化が進行してきており、計画的・効率的な施設整備が求められています。教育の質を維持・向上させていくために、全施設対象の長期的な整備計画の策定と施設整備を実施します。				
事業内容	義務教育学校施設整備予算計上（9月議会） 長寿命化個別施設計画策定（3月） 3中学校区に開校準備委員会を設置し、学校名称等の検討を開始（3月）				
令和2年度の課題と取組	【課題等】 速やかな事業着手と義務教育学校開校に向けた準備作業への着手。 【課題等への取組】 事業着手に向け、予算計上に向けた財源確保のため、国庫負担金や地方債（過疎債）の確保に向けた取り組みを行い、9月定例議会に義務教育学校施設整備予算を計上しました。その後、義務教育学校の開校に向け、碓井・稲築・稲築東の3中学校区に保護者や地域の代表者で構成された開校準備委員会を設置し、学校名称について検討を開始しました。 また、国の定めるインフラ長寿命化基本計画に基づき、長寿命化個別施設計画を策定しました。				
事務局自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性	○			
	【自己評価の根拠】 本事業は、安全・安心な教育環境の整備や、現中学校区に学校を存続させていくなど、嘉麻市のまちづくりの一翼を担う事業であり、今後は、学校を核とした地域コミュニティの醸成、日々変わり続ける教育方法へ柔軟に対応できる校舎及び校舎床面積の削減や省エネ設備採用によるランニングコストの抑制など、長期にわたって幅広い効果が期待できます。 また、3中学校区に開校準備委員会を設置し、最優先事項である学校名称の選定について、選考基準や募集方法等について協議を完了しました。				
今後の方向性	令和5年4月の義務教育学校開校に向け、開校準備作業を進めていきます。				
令和3年度の課題	最優先で学校名称を決定し、引き続き校章及び校歌について検討を進めながら、開校に向け必要な項目について検討・調整を実施していきます。				
【評価委員の意見】 意見はありませんでした。					
教育委員会評価		今回		A	
		(前回)		(A)	

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策2 個性又は能力を育成する学校教育の充実

(6) 地域に開かれた学校づくりの推進

事業名 (予算/決算)	[17] 学校関係者評価事業 (学校教育課：教務係) (予算：583千円 / 決算：75千円)				
目的	教育活動等の成果の検証とその客観性・透明性の確保を通じて、学校経営の改善と発展を目指します。				
事業内容	保護者、地域住民等の連携強化のために学校関係者評価を全校で実施し、評価結果を公表しています。				
令和2年度の課題と取組	<p>【課題等】 学校関係者評価委員会の意見をもとに学校が策定する次年度の改善策が、教育指導計画書に反映できているか確認するとともに、改善策を確実に実行するように指導していきます。</p> <p>【課題等への取組】 主幹教諭研修会等において、学校関係者評価委員会の意見が教育指導計画書に反映されている具体例を示したり、学校関係者評価を全校で実施し、学校ホームページ、学校だより、保護者会等で積極的に公表するよう校長会議等で指導したりするなど、PDCAサイクルが機能するようにしました。</p>				
事務局自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性		○		
【自己評価の根拠】 学校関係者評価の実施・公表数13校の目標値に対して、すべての学校で自己評価に基づく、学校関係者評価の実施・公表・報告が確実に行われました。 しかし、評価結果の公表に終わることなく、学校関係者評価委員会での意見をもとにした次年度の改善策を、確実に実施していく必要があります。					
今後の方向性	学校運営の継続的な改善と発展を目指し、コミュニティ・スクール構想を視野に入れながら、保護者や地域住民等の連携強化のために、継続して学校関係者評価を全校で実施し、評価結果をホームページ等で公表するとともに、教育指導計画の改善を図っていきます。				
令和3年度の課題	学校関係者評価委員会の意見をもとに公表された学校ごとの次年度の改善策が、次年度の教育指導計画書に反映され、確実に実施されているかを確認するとともに、不十分な点について指導していきます。				
【評価委員の意見】 意見はありませんでした。					
教育委員会評価		今回		A	
		(前回)		(A)	

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策2 個性又は能力を育成する学校教育の充実

(6) 地域に開かれた学校づくりの推進

事業名 (予算/決算)	[18] 学校開放事務事業 (教育総務課：管理係) (予算：— / 決算：—)				
目的	生涯学習社会における文化、スポーツ等の地域活動の場として、学校施設を開放することにより、地域住民の社会体育の推進を図ります。				
事業内容	学校教育に支障のない範囲において、市内小中学校13校(小学校8校、中学校5校)の体育館及び運動場等の施設を開放します。				
令和2年度の課題と取組	<p>【課題等】 新型コロナウイルス感染症対策により、当面の間、学校開放を停止しているため、今後学校を開放するにあたり的確な判断が求められます。</p> <p>【課題等への取組】 施設利用後の消毒の徹底や利用時間の短縮、また、利用団体に制限を設けるなどして、学校開放を一部再開しました。</p>				
事務局自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性	○			
<p>【自己評価の根拠】 社会体育施設だけでは、団体の受け入れに限度があり、学校施設を開放することで、多くのスポーツ団体が生涯スポーツの機会を得ることができており、必要性は高いと判断しています。また、経費を掛けず事業運営ができていたこともあり効率性も高いと判断しています。</p> <p>令和2年度については、新型コロナウイルスの影響により一定期間施設の利用を停止していましたが、感染対策等の利用条件を定め、一部利用を再開することができました。今回、青少年健全育成団体のみの利用再開ではありましたが、本事業が子どもたちの生涯学習の推進に繋がったと考え、コロナ禍においても効果を発揮したと判断しました。</p>					
今後の方向性	引き続き学校教育に支障のない範囲で学校施設を開放し、地域住民の社会体育の推進に努めます。				
令和3年度の課題	今後も引き続き、新型コロナウイルスの感染状況を見ながら、利用制限の強化若しくは緩和等、適切に判断し事業を実施していく必要があります。				
<p>【評価委員の意見】 意見はありませんでした。</p>					
教育委員会評価		今回		A	
		(前回)		(A)	

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策2 個性又は能力を育成する学校教育の充実

(7) 小中連携教育への取組

事業名 (予算/決算)	[19] 小中連携教育推進事業 (学校教育課：教務係) (予算： - / 決算： -)				
目的	義務教育9年間を通して、系統的、継続的な学習指導や生徒指導を行い、確かな学力、豊かな心、健やかな体を育むために、小中学校の校区型の小中連携事業を基本に推進し、小中学校すべての教職員による協働体制を整え、協働実践を行います。				
事業内容	小中連携教育等基本方針を作成し、必要に応じモデル校による実施を行います。				
令和2年度の課題と取組	【課題等】 小中連携の目的を確認するとともに、各中学校区で授業交流や職員間の交流を実施する中で校区の取組を具体化させ、継続して取組を進めていくよう指導助言を行います。 【課題等への取組】 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、2月の学力向上検証委員会は、紙上報告となりました。それまでの学力向上研修会では、小中連携した授業づくりの実践を協議する場を設定し、教師の指導力向上を図る内容で研修会を行いました。				
事務局自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性		○		
【自己評価の根拠】 新型コロナウイルス感染拡大防止の状況の中で、授業交流の実施3回以上の目標値に対して1中学校区4回、1中学校区で3回と達成することができました。しかし、3中学校区で目標値を達成することができませんでした。職員間の交流の実施3回以上の目標値に対しては、1中学校区で目標値を達成することができました。また、学力向上研修会では、小中連携した授業づくりの実践と成果・指標を決めたことで、小中連携を推進させることができました。コロナ禍の中で、十分な授業交流や職員間の交流はできませんでしたが、オンラインによる研究発表等により、小中の連携を進めていくことができました。					
今後の方向性	コロナ禍の中でも連携可能な方法を模索し、中学校区毎に更に実践を進めていく必要があります。そして、実践を検証し改善していく必要があります。				
令和3年度の課題	小中連携教育や小中一貫教育の目的を確認するとともに、各中学校区で授業交流や職員間の交流を実施する中で具体的実践を積み重ねていけるように、指導・支援を行います。				
【評価委員の意見】 コロナ禍の中、これからもオンラインによる研究発表等は必要であると思います。					
教育委員会評価		今回		A	
		(前回)		(B)	

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策2 個性又は能力を育成する学校教育の充実

(7) 小中連携教育への取組

事業名 (予算/決算)	[20] 小中連携・一貫教育研究事業 (学校教育課：教務係) (予算： - / 決算： -)				
目的	研究開発校や構造改革特区における小中一貫教育の取組の成果を踏まえ、カリキュラム区分の弾力化など小中学校間の連携・接続を改善するための仕組みについて、種々の観点に配慮しつつ十分に研究していきます。また、小中学校間の教職員の人事交流や共同研究、小中連携した学力向上の取組、生徒指導の連携などを図ります。				
事業内容	小中学校間の教職員の人事交流や共同研究を通して、小中連携を推進しています。				
令和2年度の課題と取組	<p>【課題等】 嘉麻市教職員研修会において、小中一体型校舎の施設整備計画や小中連携の取組について研修会を行います。また、先進地視察等を通して、小中連携・小中一貫教育の情報収集を行います。</p> <p>【課題等への取組】 嘉麻市管理職・主幹教諭で組織した推進会議において、小中一貫教育について研修会を行いました。新型コロナウイルス感染拡大防止のために、住民説明会は行いませんでしたが、啓発用の一貫教育リーフレットを作成し、各学校へ配布しました。また、先進地視察は行わず、電話やインターネットによる情報の収集を行いました。</p>				
事務局自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性		○		
【自己評価の根拠】 コロナ禍の中、一貫教育に関する先進地視察は、実施できませんでした。しかし、一貫教育の方針を審議する本部会議、教育内容を審議する準備部会を各2回実施し、基本的な方針を協議することができました。					
今後の方向性	小中連携教育や小中一貫教育への意識を高めるとともに、義務教育学校開校に向けた教職員への研修が必要です。				
令和3年度の課題	義務教育学校開校に向け、教育総務課と連携し、各中学校区の共通の方針を協議します。また、教職員への理解を深める手立てを講じます。コロナ禍であっても、情報収集については、引き続き行います。				
【評価委員の意見】 令和5年4月から義務教育学校がスタートしますが、子どもたちはもちろん、先生方も不安だと思います。異動に対する準備等はしっかりしていただきたいと思います。					
教育委員会評価		今回		A	
		(前回)		(B)	

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策2 個性又は能力を育成する学校教育の充実

(8) 教育の機会均等の促進

事業名 (予算/決算)	[21] 就学援助事業 (学校教育課：教務係) (予算：56,481千円 / 決算：43,634千円)				
目的	経済的理由により、就学困難な児童生徒及び特別支援学級に在籍する児童生徒の保護者に対し、必要な就学援助を行います。				
事業内容	経済的理由により、就学困難な児童生徒の支援を最優先とするため、実情に応じた援助の基準について、必要に応じて見直しが必要です。				
令和2年度の課題と取組	<p>【課題等】 経済的理由により、就学困難な児童生徒の支援を最優先とするため、実情に応じた支援を行います。</p> <p>【課題等への取組】 適正な基準により、教育費の一部の援助を行いました。また、新型コロナウイルス感染症の影響等により家計が急変した保護者に対して、申請日の延長及び規程の一部改正を実施しました。さらに臨時休校中の4月5月分の給食費相当額を昼食代として支給しました。</p>				
事務局自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性	○			
今後の方向性	今後も継続して、該当児童生徒への援助と本事業の広報等の情報発信による周知を行っていきます。また、実態に応じた援助方法について、必要に応じて検討します。				
令和3年度の課題	経済的理由により、就学困難な児童生徒の支援を最優先とするため、実情に応じた援助の基準について、必要に応じて見直しが必要です。また、引き続き新型コロナウイルス感染症の影響等について、対応が必要となります。				
【評価委員の意見】	意見はありませんでした。				
教育委員会評価	今回		A		
	(前回)		(A)		

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策2 個性又は能力を育成する学校教育の充実

(8) 教育の機会均等の促進

事業名 (予算/決算)	[22]奨学金事業 (教育総務課：教育総務係) (予算：14,430千円 / 決算：14,295千円)				
目的	嘉麻市独自の奨学金制度により、高等学校や大学等に進学するための奨学金を貸し付け、経済的理由による就学困難者の負担軽減を図ります。				
事業内容	嘉麻市奨学資金貸付及び返還に関する業務 (令和2年度貸与中の人数：30人) (令和2年度返還中の人数：218人)				
令和2年度の課題と取組	<p>【課題等】 滞納解消に向け、口座振替の推進や納付相談等の個別対応を実施しながら、特に過年度の滞納者に対する督促や分納誓約などの取組を強化していきます。また、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、収入の減少により返還が困難になった方に対し、猶予制度について周知を図ります。</p> <p>【課題等への取組】 滞納者に督促状を年1回送付し、個別に納付相談等を行い、徴収率の向上に努めました。また、口座振替の推進についても、継続して行っています。 なお、新型コロナウイルス対策として、1年間の返還猶予を実施し、6名の猶予を行いました。</p>				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性			○	
	<p>【自己評価の根拠】 奨学金制度について、広報誌等に掲載し、市内中学校や近隣の高等学校に周知を行い、新規に9名の貸付を行いました。なお、昨年度については、新型コロナウイルス感染拡大による経済的負担軽減を図るため、予算の範囲内で3次募集まで実施しました。 返還事務については、滞納者に対し2月に39件の督促状を送付しました。徴収率は、現年度88.32%で、前年度と比較すると、1.93ポイント上昇しましたが、第4次AP期間中の平均徴収率は86.81%となりました。また、過年度は5.44%で、前年度より2.13ポイント下降しました。 このことから、特に滞納を生まない取組み（現年度中の働きかけ）及び滞納者に対する督促や分納誓約などの取組強化の必要性を認識しておりますが、昨年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、十分な取組ができませんでした。</p>				
今後の方向性	経済的理由による就学困難者の負担軽減を図るため貸付事業を継続します。なお、給付型奨学金については慎重に検討していきます。また、返還事務については、現年度徴収率の向上及び滞納者に対し納付相談等の個別対応を強化し、滞納整理を図ります。				
令和3年度の課題	滞納解消に向けた取組として、引き続き口座振替の推進や、納付相談等の個別対応を実施しながら、特に滞納を生まない取組みとして、現年度滞納者に対する督促や分納誓約などの取組を強化していきます。また、新型コロナウイルス感染拡大対策として、令和2年度に続き猶予制度について周知を図ります。				
【評価委員の意見】 意見はありませんでした。					
教育委員会評価		今回		B	
		(前回)		(B)	

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策3 豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進

(1) 道徳性と自立心を養う心の教育の充実

事業名 (予算/決算)	[23] 道徳教育推進事業 (学校教育課：教務係) (予算： - / 決算： -)				
目的	学校における道徳の時間の充実を図るとともに、家庭や地域社会との連携を図りながら、豊かな自然・社会体験を通して児童生徒の内面に根差した道徳性の育成を図ります。				
事業内容	学校における道徳の時間の充実を図るとともに、家庭や地域社会との連携を図ります。				
令和2年度の課題と取組	<p>【課題等】 主幹教諭研修会において、道徳教育についてのカリキュラム・マネジメントや評価についての共通理解を図ります。また、市委嘱研究で道徳教育を追究し、小中連携した道徳教育の在り方や「考え、議論する道徳」の具体について指導助言を行います。</p> <p>【課題等への取組】 主幹教諭研修会において、教育内容等を「つなぐ」「見直す」、ひとやものを「活かす」の視点から、道徳教育のカリキュラム・マネジメントの指導を行いました。また、市委嘱研究発表会では、稲築中学校・稲築西小学校による研究発表を行い、市内全学校が参加して研究の成果を共有するとともに、「考え、議論する道徳」を目指した授業づくりについて指導助言を行いました。</p>				
事務局自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性		○		
	<p>【自己評価の根拠】 道徳の授業公開の実施1回以上の目標値、特別の教科道徳の評価に係る校内研修1回以上の目標値に対して、小中学校とも目標値を達成することができました。各小中学校とも市委嘱研究の成果を共有し、「考え、議論する道徳」に向けた教材研究や授業づくりを行い、実践の積み重ねができています。</p>				
今後の方向性	道徳教育の充実に向け、今後も「考え、議論する道徳」の授業づくりができる取組を実施します。				
令和3年度の課題	道徳教育の充実に向け、指導と評価の一体化を目指した計画づくりと授業改善を図ることができるよう指導助言を行います。				
<p>【評価委員の意見】 道徳教育は非常に大事なことなので、きちんとした道徳感覚を身につけられるように頑張ってもらいたいと思います。</p>					
教育委員会評価		今回		A	
		(前回)		(A)	

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策3 豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進

(1) 道徳性と自立心を養う心の教育の充実

事業名 (予算/決算)	[24] キャリア教育推進事業 (学校教育課：教務係) (予算：237千円 / 決算： - 円)				
目的	家庭や地域と連携して、職業・職場体験活動等を行い、児童生徒一人ひとりのキャリア発達を支援し、望ましい勤労観、職業観を育てます。				
事業内容	市内の小中学校において、総合的な学習の時間や特別活動等の中で、基礎的・汎用的能力を育成する教育活動を展開します。				
令和2年度の課題と取組	<p>【課題等】 主幹教諭研修会において、キャリア教育の視点とカリキュラム・マネジメントの側面から、キャリア教育の年間指導計画の改善・実践ができるよう指導助言を行います。また、キャリア・パスポートの活用・充実について指導助言を行います。</p> <p>【課題等への取組】 主幹教諭研修会において、キャリア教育の意義やキャリア・パスポートの活用の仕方を指導するとともに、キャリア教育の年間指導計画の改善及び実践への指導を行いました。</p>				
事務局自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性		○		
今後の方向性	<p>【自己評価の根拠】 キャリア教育年間指導計画の改善・実施の目標値に対して、小中学校13校とも改善・実施することができました。また小中学校とも、キャリア教育を通して育てる基礎的・汎用的能力を育成していくためのキャリア・パスポートを作成・更新、接続学校への引き継ぎすることができました。令和3年度は、作成したキャリア・パスポートを活用したキャリア教育が期待されるところです。</p> <p>今後も、体験的な学習活動をもとに、キャリア・パスポートを充実させていくことで、児童生徒の職業観や労働観、自己の生き方を見つめさせることが期待できます。また、郷土の良さを味わう機会としても、学習をさらに充実させていきます。</p>				
令和3年度の課題	主幹教諭研修会において、キャリア教育の視点とカリキュラム・マネジメントの側面から、キャリア教育の年間指導計画の改善やキャリア・パスポートの充実に向けた指導助言を行います。				
<p>【評価委員の意見】 意見はありませんでした。</p>					
教育委員会評価		今回		A	
		(前回)		(A)	

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策3 豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進

(1) 道徳性と自立心を養う心の教育の充実

事業名 (予算/決算)	[25] ボランティア活動推進事業 (学校教育課：教務係) (予算： - / 決算： -)				
目的	家庭や地域社会と連携して、児童生徒が他の人々や社会のために役立つとともに自分が価値のある存在であることを実感し、よりよく生きるための道徳的実践力の育成を図ります。				
事業内容	市内全小中学校において、ボランティア活動を計画的に実施します。				
令和2年度の課題と取組	<p>【課題等】 「郷土を愛する人材育成」の構想をもとに、各学校の特色を活かす取組みや目指す資質能力の育成に向けたボランティア活動の推進について指導助言を行います。</p> <p>【課題等への取組】 「郷土を愛する人材育成」の構想をもとに、各学校の特色を活かしたボランティア活動の実践について指導助言を行いました。</p>				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性		○		
	<p>【自己評価の根拠】 ボランティア活動実施校13校の目標値に対して、新型コロナウイルス感染拡大防止対策としてボランティア活動実施校は1校で目標を達成することができませんでした。 ボランティア活動実施校では、新型コロナウイルス感染拡大防止対策として教育課程外の少人数による、古紙回収作業などの極めて限定的でしたが、地域住民のボランティアの方々とともに、ボランティア活動を実施できました。学校通信等でボランティア活動の啓発や活動の様子を発信することができました。</p>				
今後の方向性	これまでに取組んできたボランティア活動を温めながら、各学校の特色を活かすとともに、地域や家庭と連携して取組める内容へと発展させていきます。				
令和3年度の課題	「郷土を愛する人材育成」の構想をもとに、特別活動や総合的な学習の時間の年間指導計画の見直し、各学校の特色を活かす取組みや目指す資質能力の育成に向けたボランティア活動の推進について指導助言を行います。				
【評価委員の意見】 学校、地域をちゃんとまとめて、子どもたちが参加してもらえるようにお願いします。					
教育委員会評価		今回	B		
		(前回)	(A)		

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策3 豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進

(2) 健やかな心身をはぐくむ健康教育の充実

事業名 (予算/決算)	[26] 学校保健事業 (学校教育課：教務係) (予算：21,151千円 / 決算：20,188千円)				
目的	家庭、地域及び関係機関等の連携・協力により、児童生徒及び教職員の心身両面にわたる健康管理の徹底を図ります。また、事故、加害行為、災害等により、児童生徒に危険又は危害が生じた場合の対処として、災害共済に加入します。				
事業内容	児童生徒、教職員の健康診断等を実施します。また、市内の小中学校に学校医、学校歯科医、学校薬剤師を配置し、児童生徒の保健、安全に関する指導を行います。さらに、各学校において学校保健及び学校安全に関する年間計画を作成し、適切に実施するよう指導助言を行います。災害共済加入手続きや給付金の支払い業務を行います。				
令和2年度の課題と取組	<p>【課題等】 健康診断受診率が目標達成にかかる指標（100%）を達成できるよう関係機関等との連携を図り、小中学校へ指導及び健康診断未受診者に対して啓発を重点的に行い、受診を促します。</p> <p>【課題等への取組】 健康診断受診率100%達成のために、関係機関と連携を図り、小中学校へ指導や保護者への通知を行いました。また、児童生徒及び教職員の心身両面にわたる健康管理を徹底できるように、学校保健年間計画の見直しと検証を進めていきました。災害共済加入手続きや給付金の支払い業務を行いました。</p>				
事務局自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性		○		
	<p>【自己評価の根拠】 健康診断受診率96.5%となりました。「未検査用の受診のお知らせ」を配布したり校医やかかりつけ医での受診を促したり、担任の方から保護者へ受診を促すなどの取組みを行いました。保護者が受診を希望されない場合があります。また、養護教諭を中心に児童生徒の保健・安全に関する指導と保護者啓発、全教職員のストレスチェックの実施等心身両面にわたる健康管理の徹底を図るとともに、学校保健年間計画の見直しを行いました。</p>				
今後の方向性	児童生徒及び教職員の健康診断を実施し、心身両面にわたる健康管理の徹底を図るため、継続して周知と啓発に取り組むとともに、各学校の学校保健年間計画の内容について指導していく必要があります。また、災害共済加入手続きや給付金の支払い業務を確実に実施します。				
令和3年度の課題	健康診断受診率が目標達成にかかる指標（100%）を達成できるよう関係機関等との連携を図り、小中学校へ指導及び健康診断未受診者に対して啓発を重点的に行い、受診を促します。				
<p>【評価委員の意見】 意見はありませんでした。</p>					
教育委員会評価		今回		B	
		(前回)		(B)	

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策3 豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進

(2) 健やかな心身をはぐくむ健康教育の充実

事業名 (予算/決算)	[27] 学校給食運営事業 (学校教育課：学校給食係) (予算：241,026千円 / 決算：225,300千円)				
目的	嘉麻市内小中学校で完全給食を行い、学校給食における衛生管理の徹底を図るとともに、魅力ある学校給食の充実につとめます。また、「食育」に関する授業の実施で「食事の重要性」等を身につける教育を支援します。				
事業内容	嘉麻市内全小中学校で完全給食を実施しています。衛生管理の徹底を図るために、施設の改修及び調理員を対象とした衛生管理研修を実施しています。 食育に関しては、「食育の日」「食育月間」はもとより、年間を通じて学校毎に実態に応じた取組みを行っています。				
令和2年度の課題と取組	【課題等】 新型コロナウイルス感染症対策もふまえた安心・安全な学校給食を実施し、更なる衛生管理の徹底を図り、食物アレルギー対応についても適切な対応を図ります。また、「食の重要性」を身につける教育の支援を行います。また、地場産利用率については30%を維持し、更なる利用率の向上を目指します。 【課題等への取組】 <ul style="list-style-type: none"> 給食を生きた教材として、食に関する教育の支援を行いました。 新型コロナウイルス感染症対策もふまえた衛生研修を地区ごとに開催しました。 今後の安心安全な給食の実施のため、学校給食業務の民間委託について、運営審議会において審議し、方向性を決めました。 地元直売所を活用し、地場産の利用率向上に努めました。 				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性	○			
【自己評価の根拠】 4月・5月の一斉休校後速やかに給食を実施し、年間190回の基準に対し、175回の給食を実施いたしました。また、給食の提供数については1日約3,100食の提供を行いました。 食育指導に対する資料の提供を実施いたしましたが、直接の研修は実施できませんでした。 地産地消の推進に関しては、例年同様に地元直売所を通じ、地場産の利用に努めましたが、地場産利用率27.2%で、前年度に比べ4.4ポイント下落し、目標値である30%以上の利用を達成することができませんでした。生産者の減少や臨時休校により利用見込みが組めないことでの生産調整があり、地元生産者からの提供が困難になりました。					
今後の方向性	安心・安全な学校給食の実施のため、新型コロナウイルス感染症対策も踏まえた衛生管理意識の徹底とアレルギー対応についても適切な対応を図ります。また、令和5年度の義務教育学校開校に合わせて導入する給食の民間委託について調査研究を深めます。給食の時間を活用した食育指導の充実を図り、更なる地場産物の活用に向け、地場産物への意識の向上を図ります。				
令和3年度の課題	新型コロナウイルス感染症対策もふまえた安心・安全な学校給食を実施し、更なる衛生管理の徹底を図ります。また、「食の重要性」を身につける教育の支援を行います。地場産利用率については30%を目指し、更なる利用率の向上を目指します。学校給食の民間委託に向けた調査研究を行い、スムーズな移行を目指します。				
【評価委員の意見】 これからも地元の食材を使った給食が提供できるように頑張ってください。					
教育委員会評価		今回		A	
		(前回)		(A)	

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策3 豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進
 (2) 健やかな心身をはぐくむ健康教育の充実

事業名 (予算/決算)	[28] 学校給食費算定及び収納事業 (学校教育課：学校給食係) (予算：85千円 / 決算：44千円)				
目的	学校給食費は、賄材料費の購入に要する経費のみを保護者負担としており、安心・安全な食材の購入等を行うための算定を行います。 また、受益者負担の公平性を確保するために、徴収業務を行います。				
事業内容	栄養バランスのとれた食材の購入ができるよう予算管理を行っています。 受益者負担の公平性を確保するため、給食費徴収業務を行っています。				
令和2年度の課題と取組	【課題等】 受益者負担の公平性を確保するため、更なる収納率の向上を目指し、徴収業務を行います。 【課題等への取組】 令和2年度については新型コロナウイルス感染症に対する特例措置として児童生徒の給食費を無償としたため、主に過年度分徴収に取り組みました。収納率向上への取組みとして催告書を発送するとともに、訪問による徴収も実施しました。高額未納者に対しては電話や個別訪問で納付相談を実施し、新規の児童手当からの同意書の提出により、分割納付や児童手当からの引去り実施件数を増やすよう努めました。				
事務局自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性	○			
【自己評価の根拠】 未納通知や催告書の発送、訪問徴収等収納率向上への取組みを実施しました。現年度（令和2年度）の収納率は児童生徒の給食費を無償化したことにより職員のみ給食費徴収であったため100%で、前年度に比べて1.22ポイント上昇しました。過年度の収納率は16.2%で、前年度に比べて2.15ポイント上昇しましたが、目標値である24.2%に及びませんでした。過年度の繰越額については昨年度に比べ、142,773円減少しました。現年度分の滞納対策がなかったこともあり、新型コロナウイルス感染症による影響も考慮しながら、過年度分の対策に取り組むこともできましたが、夜間徴収などの新規の各戸訪問の実施は控えました。					
今後の方向性	栄養バランスのとれた安心・安全な食材の購入を行うための算定を行います。 また、受益者負担の公平性を図るため、徴収業務を行います。				
令和3年度の課題	受益者負担の公平性を確保するため、更なる収納率の向上を目指し、徴収業務を行います。				
【評価委員の意見】 滞納の収納は大変な事業だと思いますが、頑張ってもらいたいです。 ルールを決め、入学した時点で同意してもらおうようなことも考えてみてはどうでしょうか。					
教育委員会評価		今回		A	
		(前回)		(A)	

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策3 豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進

(3) 家庭・地域・学校における読書活動推進

<p>事業名 (予算/決算)</p>	<p>[29] 読書活動推進事業 (学校教育課：教務係) (予算：27,807千円 / 決算：27,169千円)</p>				
<p>目的</p>	<p>児童生徒の学習や読書意欲を高めるため、市立図書館や嘉麻市学校図書館協議会等との連携を図りながら、学校図書館の整備や図書司書機能の充実に努めるとともに、組織的、継続的な読書活動の推進に努めます。</p>				
<p>事業内容</p>	<p>図書館の管理運営、図書教育の指導補助、図書の受入れ、貸出し業務、書架の整理、廃棄業務、教科用図書関係事務等を行うため、図書司書を配置し、学校図書館の整備、充実を図っています。</p>				
<p>令和2年度の課題と取組</p>	<p>【課題等】 司書教諭と学校司書の連携を深め、中学校生徒の読書量を増やすための取組みを行います。また、家庭と連携して読書活動を進めるため、「うちどく」の啓発等、効果的な取組みを推進していきます。 【課題等への取組】 各学校に学校司書、図書整理員を配置し、図書館利用の促進、読書活動の充実を図りました。また、チラシなど配付をもとに家庭での「うちどく」の啓発を行いました。</p>				
<p>事務局自己評価</p>	<p>【評価項目】</p>	<p>A</p>	<p>B</p>	<p>C</p>	<p>D</p>
	<p>事業の必要性</p>	<p>○</p>			
	<p>事業の効果</p>		<p>○</p>		
	<p>事業の効率性</p>		<p>○</p>		
<p>【自己評価の根拠】 一人当たりの貸出冊数は37.98冊で、目標値の40冊に達することができませんでした。なお、小学校においては貸出冊数50.75冊、中学校は12.5冊となり、昨年度の貸出冊数よりも少ない数値となっています。 その要因は、新型コロナウイルス感染症により、全校臨時休校となった期間の貸出冊数が減少したことによるものと考えます。</p>					
<p>今後の方向性</p>	<p>児童生徒一人当たりの年間貸出冊数の指標を令和5年度には、小学校60冊、中学校20冊に到達するよう読書量を増やす取組みを行います。また、情報の収集・選択・活用能力を育成して、教育課程の展開に寄与する「学習・情報センター」としての機能を果たすことができるよう蔵書を充実させ、授業で活用できるよう整備を行っていきます。</p>				
<p>令和3年度の課題</p>	<p>学校図書館の管理運営等を行うため、学校司書等を配置し、図書館の整備、充実を図ります。 貸出冊数の目標値を小学校56冊、中学校15冊と定め、読書量を増やすための取組みを行います。特に中学校の読書量を増やすための取組みが必要です。</p>				
<p>【評価委員の意見】 意見はありませんでした。</p>					
<p>教育委員会評価</p>		<p>今回</p>		<p>B</p>	
		<p>(前回)</p>		<p>(B)</p>	

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策3 豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進

(4) いじめ・不登校問題等の解決に向けた体制の充実

事業名 (予算/決算)	[30] 適応指導教室(れすとぴあ)推進事業(学校教育課:教務係) (予算:4,199千円/決算:3,743千円)				
目的	心理的又は情緒的理由により登校できない状態にある児童生徒の学校復帰を支援し、不登校児童生徒数の減少に取り組めます。教育相談、体験学習、教科学習、集団生活への適応指導、学校生活及び社会生活に適応できるための助言、援助を行います。				
事業内容	教育相談、体験学習、教科学習、集団生活への適応指導、学校生活及び社会生活に適応できるための助言、援助を行います。				
令和2年度の課題と取組	<p>【課題等】 学習や体験学習等を通して、集団生活への適応指導を行い、チャレンジ登校を実施しながら、学校復帰を目指した支援を行います。また、必要に応じて関係機関等と連携して取組を進めます。</p> <p>【課題等への取組】 「れすとぴあ」にも通級することができない児童生徒に対して、リーフレットの活用を行い、子育て支援課と連携しました。また、児童生徒の学校復帰を支援するため、ソーシャルスキルトレーニングを年間通して指導し、教育相談やチャレンジ登校を支援しました。より指導が充実するように、学校と連携した個別の支援計画を作成し、心の変化の激しい不登校の子どもたちに対して、一人ひとりの状況に合わせて柔軟な対応をしました。</p>				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性		○		
【自己評価の根拠】 目標達成にかかる指標は達成しています。「れすとぴあ」に2名の適応指導教室指導員を配置し、適応指導、教科指導、教育相談等を行いました。令和2年度は「れすとぴあ」に計15名の児童生徒が在籍しました。小学6年生2名と中学生3名は学校復帰を果たしました。高校への進路選択で自己決定をし、進学した生徒も4名いました。また、チャレンジ登校を行った児童生徒も多くいたことは、学校復帰へのステップになったと思われます。					
今後の方向性	不登校児童生徒を減少させるためには、学校と連携した復帰支援や居場所づくり、その保護者が相談できる体制を整備する必要があります。子育て支援課と連携しながら、子どもの安全安心の場所と学習の機会を提供していきます。				
令和3年度の課題	学習や体験学習等を通して、集団生活への適応指導を行い、チャレンジ登校を実施しながら学校復帰を目指した支援を行います。学校・担任と連携した個別の支援計画の作成や教科指導・進路指導について支援していく必要があります。子育て支援課と連携して児童生徒への支援をさらに充実させます。				
【評価委員の意見】 意見はありませんでした。					
教育委員会評価		今回		A	
		(前回)		(A)	

A:期待どおり、B:概ね期待どおり、C:課題あり、D:事業の見直し要

■主要施策3 豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進

(4) いじめ・不登校問題等の解決に向けた体制の充実

<p>事業名 (予算/決算)</p>	<p>[31] 教育相談推進事業 (学校教育課：教務係) ※平成31年4月から組織改正のため子育て支援課へ移行 (予算： — / 決算： —)</p>				
<p>目的</p>	<p>いじめや不登校、暴力行為などの問題行動を起こした児童生徒に対して、専門的な知識や経験を有するスクールカウンセラー（臨床心理士）がカウンセリングを行い、スクールソーシャルワーカー（社会福祉士・精神保健福祉士）が中心となって関係機関と連携をとりながら問題解決にあたります。</p>				
<p>事業内容</p>	<p>嘉麻市教育研究所にスクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカーを配置し、不登校等の未然防止に向けて支援を行います。また、必要に応じて、保護者や教職員等の教育相談を実施します。</p>				
<p>令和2年度の課題と取組</p>	<p>【課題等】 必要に応じて子育て支援課家庭・教育相談支援係と連携し、保護者や教職員等の教育相談、就学前の相談及び専門的な立場での指導助言を行い、児童生徒の不登校等の未然防止を目指した支援を行います。 【課題等への取組】 いじめ・不登校の要因は複雑化しており、学校、嘉麻市教育研究所及び子育て支援課が連携し、スクールカウンセラーによる教育相談、スクールソーシャルワーカーによる家庭訪問や電話相談等の支援、さらに他の関係機関との連携により、いじめ・不登校の解消、未然防止に取り組みました。関係機関の連携や支援に関するチラシを、入学式等の学校行事のときに配布して周知しました。</p>				
<p>事務局自己評価</p>	<p>【評価項目】</p>	<p>A</p>	<p>B</p>	<p>C</p>	<p>D</p>
<p>事業の必要性</p>	<p>○</p>				
<p>事業の効果</p>			<p>○</p>		
<p>事業の効率性</p>	<p>○</p>				
<p>事務局自己評価</p>	<p>【自己評価の根拠】 令和2年度の教育相談は574件あり、学校からの要請を受け児童生徒や教職員を対象に行いました。就学相談も152件あり、保護者や関係課と行いました。スクールソーシャルワーカーによる面談・相談等の件数は1,069件あり、学校・家庭訪問をはじめ、関係課や児童相談所等と協力しながら問題解決にあたりました。令和2年度のいじめの認知件数は45件であり、前年度比6件減となっています。しかし、不登校児童生徒数は87名（全国出現率1.88%（R1））に対して嘉麻市出現率3.21%（R2）という結果になりました。</p>				
<p>今後の方向性</p>	<p>必要に応じて適応指導教室と子育て支援課で連携し、保護者や教職員等の教育相談や就学相談窓口へのつなぎを行います。また、問題行動を起こした児童生徒のカウンセリング等により、いじめや不登校等の未然防止に向けて支援を行う必要があります。</p>				
<p>令和3年度の課題</p>	<p>子育て支援課と連携し、保護者や教職員等の教育相談、就学前の相談及び専門的な立場での指導助言を行い、児童生徒の不登校等の未然防止を目指した支援を行います。</p>				
<p>【評価委員の意見】 意見はありませんでした。</p>					
<p>教育委員会評価</p>		<p>今回</p>		<p>A</p>	
		<p>(前回)</p>		<p>(A)</p>	

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策3 豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進

(4) いじめ・不登校問題等の解決に向けた体制の充実

<p>事業名 (予算/決算)</p>	<p>[32] 学校支援相談員配置事業 (学校教育課：教務係) (予算： — / 決算： —)</p>				
<p>目的</p>	<p>家庭にひきこもりがちな不登校児童生徒に対して、児童生徒の抱える心の問題を理解し、積極的に取組む意欲を有する訪問指導員を派遣し、ひきこもりがちな児童生徒やその保護者等の悩みや不安を解消し、適応指導教室への通級及び学校復帰を支援します。</p>				
<p>事業内容</p>	<p>不登校及び不登校傾向の児童生徒宅を訪問し、適応指導教室への通級及び学校復帰を支援します。</p>				
<p>令和2年度の課題と取組</p>	<p>【課題等】 子育て支援課と連携し、家庭訪問等の支援を細やかに行うことで、ひきこもりがちな児童生徒やその保護者等の悩みや不安をやわらげ、登校を促します。また、定期的に関係機関等の会議に出席し、情報共有や適切な支援になるよう検討し、連携しながら支援します。 【課題等への取組】 現在学校支援相談員を3名配置し、家庭訪問等を行い、一人ひとりに応じたきめ細やかな指導・相談を行うことで、適応指導教室への通級及び学校復帰への支援を行いました。また、不登校サポート会議やケース会議、学期ごとに福祉事務所等の関係機関との会議に出席し、情報の共有を行いました。</p>				
<p>事務局自己評価</p>	<p>【評価項目】</p>	<p>A</p>	<p>B</p>	<p>C</p>	<p>D</p>
<p>事業の必要性</p>	<p>○</p>				
<p>事業の効果</p>			<p>○</p>		
<p>事業の効率性</p>		<p>○</p>			
<p>事務局自己評価</p>	<p>【自己評価の根拠】 子育て支援課との連携により、学校支援相談員3名を配置、きめ細やかな指導、相談を実施することができましたが、不登校児童生徒数は87名(全国出現率1.88%(R1))に対して嘉麻市出現率3.21%(R2))となりました。この不登校増加の大きな要因は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため一斉休校になり登校リズムを崩し、休校措置が終わっても容易に学校を休んでしまう傾向にあると考えます。</p>				
<p>今後の方向性</p>	<p>各学校の担当者、学校支援相談員(子育て支援課)、嘉麻市学習等支援室(子育て支援課)、適応指導教室と連携した取組みを強化していきます。また、不登校対策協議会を定期的に開催し、個々の不登校児童生徒の状況に応じた支援策等(児童生徒理解・支援シートの活用)を共有する議論及び会議を行います。</p>				
<p>令和3年度の課題</p>	<p>令和2年度不登校児童生徒が増加した大きな要因として、新型コロナウイルス感染症の影響で一斉休校になり、児童生徒が登校リズムを崩し、休校措置が終わっても容易に学校を休んでしまう傾向にあると考えます。不登校対策協議会を定期的に開催し、関係機関が連携した組織的な支援を実施することにより、令和3年度の不登校児童生徒数55人以下を目指します。</p>				
<p>【評価委員の意見】 意見はありませんでした。</p>					
<p>教育委員会評価</p>		<p>今回</p>		<p>B</p>	
		<p>(前回)</p>		<p>(A)</p>	

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策3 豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進

(5) 家庭・地域の教育力を高める支援体制の充実

事業名 (予算/決算)	[33] 地域教育資源・人材活用事業 (学校教育課：教務係) (予算：1,460千円 / 決算：687千円)				
目的	学習指導要領の趣旨を踏まえ、各学校の創意を生かした教育課程を編成し、地域社会の現状を踏まえ、児童生徒の学習に協力することのできる地域の人材や施設を生かし、教育活動を行います。				
事業内容	専門的な知識や経験を持っている人から話を聞いたり、技術を見せてもらったりする体験は、子どもたちの学びを深める上で大変効果的であり、地域の人材を外部講師として招き、農業体験や物づくり指導を推進します。				
令和2年度の課題と取組	<p>【課題等】 主幹教諭研修会において、郷土を愛する人材を育成していくためのカリキュラム・マネジメントを行い、各学校における教育課程の改善内容を確認させます。また、地域や家庭と連携し、各学校で実践した学習を地域や家庭に広報していくことを指導します。</p> <p>【課題等への取組】 主幹教諭研修会において、地域の「ひと、もの、こと」の活用が見える資料づくりやコロナ禍における取り組みについて指導助言を行いました。また、学校通信などをもとに、各学校が実践した学習を地域や家庭に広報するよう指導助言を行いました。</p>				
事務局自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性		○		
【自己評価の根拠】 地域教育資源・人材を活用する教育活動計画作成・実施13校の目標値に対して、13校作成・実施及び地域の教育資源を活用した教育活動を展開することができています。地域の特性を生かした活動の充実に向けた教材研究や教育課程の編成も徐々に進んでいます。学校通信やHPをもとに、各学校での実践が広がりつつあります。今後も継続して改善に取り組む、教科や単元の目標と照らし合わせ、効果的な学習にしていく必要があります。					
今後の方向性	今後も教育課程の見直し、地域資源や地域人材の活用計画の充実、学習活動の実施・評価を行うとともに、地域や家庭の教育力の向上を視野に、取組みの成果を地域や家庭に広報していく必要があります。				
令和3年度の課題	主幹教諭研修会において、地域の「ひと・もの・こと」を活用した単元等を交流する場を設定するなど、郷土を愛する人材を育成していくためのカリキュラム・マネジメントについて指導します。また、地域や家庭と連携し、各学校で実践した学習を地域や家庭に広報していくことを指導します。				
【評価委員の意見】 郷土を愛する人づくりは、良いことだと思います。					
教育委員会評価		今回		B	
		(前回)		(B)	

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策3 豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進

(5) 家庭・地域の教育力を高める支援体制の充実

<p>事業名 (予算/決算)</p>	<p>[34] 学校と地域が連携して子どもを育む事業 (生涯学習課：社会教育係) (予算： - / 決算： -)</p>				
<p>目的</p>	<p>子どもたちの総合的な健全育成と学力向上の手段として学社連携を推進するとともに、多岐にわたる学校教育の指導に地域の教育力を活用し、地域全体の教育力を高めます。</p>				
<p>事業内容</p>	<p>ボランティア人材バンクの活用や住民会議、子ども会事業、学校行事等を通して、学校と地域が連携・協力できるよう支援します。</p>				
<p>令和2年度の課題と取組</p>	<p>【課題等】 会計年度任用職員制度実施に伴い、地域活動指導員の勤務形態が変わることから、学校と地域の連携についての支援方法等を検討する必要があります。</p> <p>【課題等への取組】 ボランティア人材バンク事業において、事前準備や打合せ等については申請者側と登録者で対応してもらい、地域活動指導員については本来の業務であるコーディネートのみとしました。</p>				
<p>事務局 自己評価</p>	<p>【評価項目】</p>	<p>A</p>	<p>B</p>	<p>C</p>	<p>D</p>
	<p>事業の必要性</p>	<p>○</p>			
	<p>事業の効果</p>		<p>○</p>		
	<p>事業の効率性</p>		<p>○</p>		
<p>【自己評価の根拠】 ・学社連携・交流事業の実施回数：7回（アクションプラン目標値：7回） 地域活動指導員の支援のもと、住民会議などの団体が学校に出向き、事業についての協議・周知・募集を行うなど、学社間の連携を図ることができました。 新型コロナウイルス感染対策により懇談会等の開催はできませんでしたが、不可抗力によること、また、目標値を達成していることから、事業の効果及び効率性を「B」評価としました。</p>					
<p>今後の方向性</p>	<p>学校と地域が情報交換・情報共有できるよう支援し、学校と地域団体との協働活動を推進します。</p>				
<p>令和3年度の課題</p>	<p>周知を含めた人材バンクの活用促進を行う必要があります。 (令和3年度より生涯学習推進事業に統合)</p>				
<p>【評価委員の意見】 意見はありませんでした。</p>					
<p>教育委員会評価</p>		<p>今回</p>		<p>B</p>	
		<p>(前回)</p>		<p>(B)</p>	

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策3 豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進

(5) 家庭・地域の教育力を高める支援体制の充実

事業名 (予算/決算)	[35] 家庭教育支援事業 (生涯学習課：社会教育係) (予算：285千円 / 決算：270千円)				
目的	子育て家庭の孤立を防ぐとともに、子育ての不安や負担感・行き詰まり感の解消を図る事業の実施や、地域活動を通して子育て家庭と地域の人たちの交流や保護者同士の交流を図り、地域ぐるみで子育て家庭を支援する体制づくりを目指します。				
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・メディアが及ぼす影響・対策に関する啓発活動等（メディア講座） ・屋外体験事業（ミニプレーパーク事業） ・家庭教育支援講座（子育て講座） 				
令和2年度の課題と取組	<p>【課題等】 SNSを使用したいじめ問題や、メディア使用過多による学力低下・生活習慣の乱れなど、メディアに関する影響については広範に啓発を行っていく必要があります。</p> <p>【課題等への取組】 小中学校等に出向き、児童・生徒、保護者及び教職員等に子どもの発達に合わせたメディア接触についての情報提供及び啓発を行いました。</p>				
事務局自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性	○			
<p>【自己評価の根拠】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メディア講座回数/参加者数：45回/1,476人 (アクションプラン目標値：150回/7,500人) ・家庭教育支援講座回数/参加者数：24回/435人 (アクションプラン目標値：30回/1,000人) <p>コロナ禍における学校休業により、子どものメディア接触時間が増えていることから、事業の必要性は大きいと考えます。年度当初の緊急事態宣言に伴う事業中止と、新しい生活様式に則した規模縮小での事業実施で目標値を下回っていますが、その中においても時間短縮や、回数を増やし1回の参加人数を減らすなど、感染防止対策を講じつつ事業を実施しました。</p> <p>家庭での取り組みや事業の周知・PRのための「家庭教育支援リーフレット」を作成し、小学校等に配布しました。また、ホームページの随時更新と新たに開設したフェイスブックにて事業の周知を行いました。以上のことから、事業の効果及び効率性を「A」評価としました。</p>					
今後の方向性	メディアに関する現状の把握に努め、広範な啓発を行います。また、事業や講座の実施内容については、参加者のニーズを把握し検討するとともに、ホームページやSNSを活用した情報の発信を行います。				
令和3年度の課題	コロナ対策を考慮した事業の企画・立案・実施を行う必要があります。				
<p>【評価委員の意見】 意見はありませんでした。</p>					
教育委員会評価		今回		A	
		(前回)		(A)	

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策3 豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進

(5) 家庭・地域の教育力を高める支援体制の充実

事業名 (予算/決算)	[36] 青少年健全育成事業 (生涯学習課：社会教育係) (予算：1,387千円 / 決算：953千円)				
目的	総合的な青少年の健全育成のための活動並びに関係機関との連携を強化します。				
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 青少年の悩みや相談に電話や直接対応できるよう、学校教育課や嘉麻市教育研究所と連携し相談体制の充実を図ります。 ・ 少年補導委員が効率的に活動できるよう支援を行なうとともに、嘉麻市教育研究所と連携し市内巡回を行うことにより、不審者等から児童・生徒の安全を確保するとともに、いじめや非行防止を図ります。 				
令和2年度の課題と取組	<p>【課題等】 相談業務対応の配置人員の増員とスキルアップを図る必要があります。</p> <p>【課題等への取組】 正規職員及び会計年度任用職員で対応しました。スキルアップに関する研修について情報収集を行いました。該当する研修がなかったため、自己研修と業務に対する職員間の認識の共有を行いました。</p>				
事務局自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性		○		
<p>【自己評価の根拠】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 嘉麻市少年補導委員委嘱人数：36人（アクションプラン目標値：47人） 本市の少年補導委員は、嘉麻警察署少年補導員に準じ委嘱しています。 補導委員の定期巡回等により事案発生を抑止に繋がっているため、事業の効果は「A」評価としました。 高齢化等により欠員が生じており、延べ巡回件数が減少していること、また、コロナ対策により研修会を実施できなかったことから、事業の効率性は「B」評価としました。 電話相談について、学校教育課との情報共有を迅速に行いました。 					
今後の方向性	関係課・関係機関等と情報共有し、相談業務体制の充実を図ります。引き続き嘉麻警察署や補導委員、関係機関と連携・協力を行いながら、児童生徒の安全確保に努め、青少年の健全育成を図ります。				
令和3年度の課題	相談業務に対応する職員のスキルアップを図る必要があります。				
<p>【評価委員の意見】</p> <p>以前は、高齢の男性が多かったようですが、40代や50代の女性の方を青パトで見かけるので、改善はされているのではないかと思います。</p>					
教育委員会評価		今回		A	
		(前回)		(A)	

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策3 豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進

(6) 男女共同参画教育の推進

<p>事業名 (予算/決算)</p>	<p>[37] 学校における男女共同参画推進事業 (学校教育課：教務係) (予算： - / 決算： -)</p>				
<p>目的</p>	<p>男女共同参画の意識づくりをする上で、家庭や学校・地域での教育が重要であり、「嘉麻市男女共同参画推進条例」の理念に基づき、男女共同参画の趣旨や必要性について、教育を通して意識改革と啓発を促進します。</p>				
<p>事業内容</p>	<p>学校教育の場においては、指導者の共通認識のもとに男女平等の教育の体制をつくり、男女平等の視点から習慣・行事等の見直し、固定的性別役割分担にとらわれない指導を進めます。</p>				
<p>令和2年度の課題と取組</p>	<p>【課題等】 「嘉麻市男女共同参画推進条例 学ぼうそして行動しよう」の冊子を活用した授業づくりや男女共同参画を意識したカリキュラム・マネジメントを推進します。 【課題等への取組】 各学校の配布した「嘉麻市男女共同参画推進条例 学ぼうそして行動しよう」を活用した授業づくりを各学校で実施しました。特に、下山田小学校の実践や授業の様子がNHKで放映されました。</p>				
<p>事務局 自己評価</p>	<p>【評価項目】</p>	<p>A</p>	<p>B</p>	<p>C</p>	<p>D</p>
	<p>事業の必要性</p>	<p>○</p>			
	<p>事業の効果</p>	<p>○</p>			
	<p>事業の効率性</p>		<p>○</p>		
<p>【自己評価の根拠】 教職員等の研修実施の目標値に対して、10校実施と令和元年度より2校増加しましたが、目標値を達成できませんでした。男女共同参画に関する授業実施の目標値に対して、13校実施できており目標を達成することができました。その中で、「嘉麻市男女共同参画推進条例 学ぼうそして行動しよう」の冊子を活用した学校は、小学校は8校中8校が、家庭科や社会科、理科、生活科、体育科、道徳科、学級活動、総合的な学習の時間で活用できました。中学校では5校中3校でしたが、社会科や家庭科、保健体育科、学級活動、総合的な学習の時間と活用の範囲や授業回数が増えています。性に関する研修やそれを基にした授業実践が実施される中、中学校における学生服の見直し等、LGBTへの理解が進んでいます。また、各学校では、日常的に男女混合名簿を使用しており、役割分担等も男女を問わず、児童生徒の意欲や適正で決定しています。</p>					
<p>今後の方向性</p>	<p>「嘉麻市男女共同参画推進条例 学ぼうそして行動しよう」の冊子を活用し、男女平等等の観点から慣習・行事等の見直し、固定的性別役割分担にとらわれない指導を進めます。</p>				
<p>令和3年度の課題</p>	<p>「嘉麻市男女共同参画推進条例 学ぼうそして行動しよう」の冊子を活用した授業づくりや各教科等の年間指導計画における活用の位置づけを推進するとともに、教職員研修（校内研修）の全校実施を推進します。</p>				
<p>【評価委員の意見】 意見はありませんでした。</p>					
<p>教育委員会評価</p>		<p>今回</p>		<p>A</p>	
		<p>(前回)</p>		<p>(A)</p>	

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策3 豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進

(6) 男女共同参画教育の推進

<p>事業名 (予算/決算)</p>	<p>[38] 地域社会における男女共同参画推進事業 (生涯学習課：社会教育係) (予算： - / 決算： -)</p>				
<p>目的</p>	<p>家庭の中や地域活動における固定的な性別役割分担意識に基づく慣習・慣行の見直しを促進し、男女共同参画の啓発を行うとともに、講座を実施する中で性別役割分担意識の解消に繋がります。</p>				
<p>事業内容</p>	<p>社会教育における事業や講座を通して、男女共同参画の趣旨や必要性について意識啓発を行うとともに、性別役割分担意識の解消に努めます。</p>				
<p>令和2年度の課題と取組</p>	<p>【課題等】 男性保護者も含め、家族での参加を促すような事業・講座の実施を検討し、家庭における男女共同参画を推進する必要があります。</p> <p>【課題等への取組】 家族で参加できるように、休日夜間の屋外体験活動事業（おやこでたのしむ星空観察）を実施しました。参加した保護者14人のうち、男性保護者は6人でした。</p>				
<p>事務局 自己評価</p>	<p>【評価項目】</p>	<p>A</p>	<p>B</p>	<p>C</p>	<p>D</p>
	<p>事業の必要性</p>	<p>○</p>			
	<p>事業の効果</p>		<p>○</p>		
	<p>事業の効率性</p>		<p>○</p>		
<p>今後の方向性</p>	<p>実施する事業の中で、男女共同参画についての意識啓発を行います。また、男性の家事・育児への参画を促す講座や女性の性別役割分担意識の解消に繋がるような取組みを進めます。</p>				
<p>令和3年度の課題</p>	<p>男性保護者も含め、家族での参加を促すような事業・講座の実施を検討し、家庭における男女共同参画を推進する必要があります。</p>				
<p>【評価委員の意見】 以前、NHKで嘉麻市の特集で男女共同参画の授業風景等があり、非常にインパクトがありました。</p>					
<p>教育委員会評価</p>		<p>今回</p>		<p>B</p>	
		<p>(前回)</p>		<p>(B)</p>	

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策 4 生涯学習の実現を目指す社会教育の推進

(1) 生涯学習関係機関、団体との連携・協力体制の整備

事業名 (予算/決算)	[39] 社会教育関係団体等育成事業 (生涯学習課：社会教育係) (予算：4,701千円 / 決算：1,987千円)				
目的	社会教育関係団体が主体的に活動できるよう情報の提供や研修会の実施、事業運営の支援を行い、協働のまちづくりが図られるよう地域のリーダー育成に努めます。				
事業内容	社会教育関係団体をはじめ、各種団体が自主的な運営や事業展開が図れるよう指導助言等を行い、育成支援を行います。				
令和2年度の課題と取組	<p>【課題等】 新型コロナウイルス感染症対策に伴う事業実施の方策を含め、自立に向けた指導助言を継続的に行う必要があります。</p> <p>【課題等への取組】 各団体の総会等における書面開催の提案など、コロナ対策に関する情報提供と助言を行いました。また、各団体の定例会議等において、自主的な活動に向けた指導・助言を行いました。</p>				
事務局自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性		○		
<p>【自己評価の根拠】 ・支援団体数：9団体（アクションプラン目標値：10団体） コロナ対策のため、事業・イベントを自粛した団体もあり、補助金交付団体数は9団体のうち、6団体でした。また、事業縮減に伴う補助金の使途について助言を行いました。 各団体の支部活動において、人材不足のため、地域活動指導員の実務支援を要する団体もありますが、徐々に自主的な活動へと移行出来ているところもあるため、事業の効果及び効率性を「B」評価としました。</p>					
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ対策に関連した情報提供を行うとともに、適正な補助金使途について指導助言を行います。 ・各団体の課題を認識し、自立へ向けた指導助言と支援を行います。 				
令和3年度の課題	新型コロナウイルス感染症対策に伴う事業実施の方策を含め、自立に向けた指導助言を継続的に行う必要があります。				
<p>【評価委員の意見】 意見はありませんでした。</p>					
教育委員会評価		今回		B	
		(前回)		(B)	

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策 4 生涯学習の実現を目指す社会教育の推進

(2) 学習機会の提供及び学習成果の活用促進

事業名 (予算/決算)	[40] 社会教育施設整備事業 (生涯学習課：社会教育係) (予算：82,722千円 / 決算：73,480千円)				
目的	市民の様々な学習ニーズに応える生涯学習の場(拠点)を適切に提供できるよう、施設の特徴及び防災上の活用を考慮し、優先度の高いものから改修と整備(保守・管理)を行い、効果的な生涯学習活動の場としての整備を図ります。				
事業内容	社会教育施設の維持管理・改修・補修、施設備品の管理・補修を行います。				
令和2年度の課題と取組	<p>【課題等】 施設利用に係る新型コロナウイルス感染症対策及び利用者への周知徹底を図る必要があります。</p> <p>【課題等への取組】 各施設に体温計、消毒用アルコールなどの感染対策資材を配置しました。施設内の掲示及びホームページ等による周知と、定期的な利用がある社会教育関係団体及び団体登録の団体に対しては文書による周知を行いました。また、管理業務の委託先に管理人への指導を要請し、周知徹底を図ることにより利用者の感染抑止に繋げることができました。</p>				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性			○	
<p>【自己評価の根拠】</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設利用者数：22,331人(アクションプラン目標値：81,400人) 目標達成率は3割弱ですが、コロナ対策による休館・時短及び利用人数制限等を鑑み、事業の効果は「B」評価としました。 維持管理に係る経常支出に加え、経年劣化に伴う不慮の修繕・補修により予定外の支出が増加し、また、施設使用料収入の減もあり、費用対効果の面から事業の効率性については「C」評価としました。 経費節減のため、必要最小限の修繕に努めるとともに、保守点検報告を精査し、補修に係る年次計画を作成しました。 また、建築基準法施行令の改正に伴う特定天井(吊り天井)改修工事を遅滞なく実施しました。 					
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> 社会教育施設を適正に維持管理運営することで、市民に教育・文化活動や発表を行う場と機会を継続して提供します。 行財政改革に伴う個別施設の見直し計画・方針に基づき、適正な運営を行います。 				
令和3年度の課題	経常経費のほか、老朽化に伴う突発的な故障等による修繕費の支出も増加傾向にあるため、廃止を含めた施設の運営管理を検討する必要があります。				
<p>【評価委員の意見】 意見はありませんでした。</p>					
教育委員会評価		今回		B	
		(前回)		(B)	

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策 4 生涯学習の実現を目指す社会教育の推進

(2) 学習機会の提供及び学習成果の活用促進

事業名 (予算/決算)	[41] 生涯学習推進事業 (生涯学習課：社会教育係) (予算：25,006千円 / 決算：23,177千円)				
目的	市民が自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、生涯学習推進体制の整備をはじめ、生涯学習の総合的推進を図るとともに、地域の生涯学習施設等を活用した生涯学習のための活動を推進します。				
事業内容	地域活動指導員を配置し、地域活動及び生涯学習の推進を図ります。 社会教育関係職員・地域活動指導員の研修会への参加や、社会教育主事の養成など関係職員の資質向上に努めます。				
令和2年度の課題と取組	【課題等】 人材バンク登録者の減少に伴い利用件数も減少傾向にあるため、ボランティア募集の周知方法や学校等への利用の働きかけを行う必要があります。 【課題等への取組】 各地区の地域活動指導員が主となり、学校等への利用促進を図りました。				
事務局自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性		○		
【自己評価の根拠】 ・人材バンク派遣回数：10回（アクションプラン目標値：170回） 新型コロナ対策による学校休業の影響と、再開後は感染拡大防止の観点から、外部講師の受け入れを控える学校もあり、派遣回数は目標を下回っています。 不可抗力の部分が多いことから、事業の効果及び効率性を「B」評価としました。 筑豊教育事務所等で開催された研修会に参加し、職員・地域活動指導員の資質向上に努めました。					
今後の方向性	・ボランティア人材バンクの活用促進 ・職員の資質向上				
令和3年度の課題	・周知を含めた人材バンクの活用促進を行う必要があります。 ・内部研修会の実施と外部研修会への参加により職員の資質向上を図る必要があります。				
【評価委員の意見】 意見はありませんでした。					
教育委員会評価		今回		B	
		(前回)		(B)	

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策4 生涯学習の実現を目指す社会教育の推進
 (2) 学習機会の提供及び学習成果の活用促進

事業名 (予算/決算)	[42] 青少年体験活動推進事業 (生涯学習課：社会教育係) (予算：191千円 / 決算：28千円)				
目的	青少年の人格形成に大切な少年期に生活体験や自然体験等の活動を促進し、社会性、自主性等を身につけた地域リーダーとなる人材育成を推進します。				
事業内容	通学合宿及び「わたしのエッセイ」は新型コロナウイルス感染対策により中止しました。				
令和2年度の課題と取組	【課題等】 新型コロナウイルス感染症対策に伴う今後の事業実施について検討する必要があります。 【課題等への取組】 通学合宿は各地区とも実行委員会において中止としました。 「わたしのエッセイ」は学校休業の影響により中止としました。				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 ・通学合宿の参加者数：0人：中止（アクションプラン目標値：80人） ・エッセイの応募点数：0点：中止（アクションプラン目標値：1,220点） 通学合宿は、宿泊や調理等の場面において密の状態を避けることが難しく、実行委員会も対応が困難であると判断し、今年度は中止としました。 「わたしのエッセイ」は、例年夏休みを利用して執筆をお願いしていましたが、学校休業の影響により十分な期間が設けられず、日程的に実施困難であったため中止としましたが、募集要項や表彰式の内容を見直し、次年度の実施に向けた要項を策定したことから、事業の効果及び効率性を「B」評価としました。				
今後の方向性	子どもたちに様々な体験活動の機会を提供することにより、社会性・自主性・表現力などの「生きる力」を育みます。				
令和3年度の課題	令和3年度より公民館活動活性化推進事業に移行				
【評価委員の意見】 意見はありませんでした。					
教育委員会評価		今回		B	
		(前回)		(A)	

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策 4 生涯学習の実現を目指す社会教育の推進

(2) 学習機会の提供及び学習成果の活用促進

事業名 (予算/決算)	[43] 公立公民館・自治公民館連携強化推進事業 (生涯学習課：中央公民館係) (予算：17,807千円 / 決算：16,130千円)				
目的	公立公民館及び自治公民館の連携強化、併せて地域の公民館が生涯学習活動の拠点として機能するよう施設の適正な維持管理を支援します。				
事業内容	地域課題の把握や情報共有並びに公民館運営及び公民館基本計画に基づく分館方式移行への共通認識を図るため、公立公民館長及び自治公民館長の会議を開催します。また、分館及び自治公民館の活動及び自治公民館施設の適正な維持管理を支援するため補助金を交付します。				
令和2年度の課題と取組	【課題等】 公民館基本計画に基づく施設整備については、財源確保が困難な状況が続いており、財源確保のための調査や実施時期の検討を行う必要があります。 【課題等への取組】 公民館基本計画に基づく施設整備のうち、稲築地区公民館の建替えについては財源や実施時期の検討を行いました。 分館方式移行については、地元協議を行う前に、分館移行への合意形成の必要性、活動補助金や施設に関することなど多数の整理すべき点を掘り下げました。				
事務局自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 <ul style="list-style-type: none"> ・公民館運営審議会の開催数「R2の目標値3回、実績3回」 ・分館長会議の開催数「R2の目標値3回、実績1回」 ・自治公民館長会議の開催数「R2の目標値3回、実績1回」 ・研修会への参加「R2の目標値4回、実績0回」 ・分館運営費補助金 3,671千円（山田4館、嘉穂4館） ・自治公民館等活動補助金 3,547千円（稲築27館、碓井23館） ・自治公民館の修繕料補助金 4,330千円（稲築1館、嘉穂1館） コロナ禍により、分館長会議並びに自治公民館長会議は目標値を下回り、分館方式移行への共通認識や公民館活動の情報共有を図ることができませんでしたが、活動補助金及び自治公民館施設の適正な維持管理を支援するための補助金については遅滞なく交付しました。よって効果・効率性については「B」評価としています。				
今後の方向性	公立公民館・自治公民館の連携強化及び施設の適正な維持管理が行えるよう引き続き補助金を交付するとともに、新型コロナウイルス感染拡大状況を見ながら会議等を実施し、情報共有並びに共通認識を図ります。				
令和3年度の課題	分館方式移行については、地元協議を行う前に、問題点を整理する必要があります。				
【評価委員の意見】 意見はありませんでした。					
教育委員会評価		今回		B	
		(前回)		(B)	

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策 4 生涯学習の実現を目指す社会教育の推進

(2) 学習機会の提供及び学習成果の活用促進

事業名 (予算/決算)	[44] 公民館活動活性化推進事業 (生涯学習課：中央公民館係) (予算：144,137千円 / 決算：116,716千円)				
目的	住民相互の交流と教養の向上、さらには健康増進を図り、地域住民の生きがいづくりの場を提供することを目的とします。				
事業内容	地域住民の生活に根ざした教育・文化に関する各種の事業・講座を開催します。また、地域で活動する人材の育成及び団体等の支援を行いながら地域住民参加型の事業を推進します。				
令和2年度の課題と取組	<p>【課題等】 今後は、新型コロナウイルス関連による新しい生活様式を取り入れた講座や研修会の開催を検討する必要があります。</p> <p>【課題等への取組】 定員や回数の縮小を図るなど感染防止に努め、可能な限り事業を実施しました。</p>				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 ○地域住民との協働による事業数「R2の目標値16事業、実績2事業」 実施した事業 ・冬休みときめき学習 延べ 3回 参加者数 34名 ・ふるさと探検隊 延べ 3回 参加者数 14名 ○公民館講座数「R2の目標値15講座、実績8講座」 実施した主な講座等 ・日本語教室 延べ13回 参加者数 221名 ・絵葉書、はんこ作り 延べ 6回 参加者数 78名 ・人権部落問題研修会 延べ 3回 参加者数 70名 ・キャッシュレス講座 延べ 2回 参加者数 36名 コロナ禍の影響により目標値を大きく下回りましたが、感染防止対策を講じながら講座等を実施しました。よって、効果・効率性については「B」評価としました。				
今後の方向性	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を講じながら公民館基本計画に定める「公立公民館で実施する事業」に基く事業を実施し、公民館活動の活性化を図ります。また、地域人材を活用できる事業・講座の企画・運営を通じ、地域の核として活動する人材の育成を図ります。				
令和3年度の課題	引き続き、新型コロナウイルス感染拡大状況を見図りながら、新しい生活様式を取り入れた事業についても実施する必要があります。				
【評価委員の意見】 意見はありませんでした。					
教育委員会評価		今回		B	
		(前回)		(A)	

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策 4 生涯学習の実現を目指す社会教育の推進

(3) 図書館の利用促進

事業名 (予算/決算)	[45] 図書館施設管理運営事業 (生涯学習課：図書館係) (予算：12,440千円 / 決算：12,094千円)				
目的	図書館施設及び図書館システムを適切に管理運営することにより、読書環境の整備・充実を図り、快適かつ安心して利用できる図書館サービスを提供することを目的とします。				
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 図書館施設の維持管理及び図書館システムの更新・選書等資料の管理 ・ 配本車の巡回・移動図書館車の運行・図書館だよりの発行 等 				
令和2年度の課題と取組	<p>【課題等】 山田図書館特定天井改修設計に基づき、令和2年7月から改修工事を行います。その際、臨時休館となる山田図書館利用者へ読書環境が提供できるよう検討する必要があります。また、図書館システムの導入から7年が経過し、問題も生じてくることから、図書館システム等のリプレースを行う必要があります。</p> <p>【課題等への取組】 山田図書館特定天井改修工事に伴い臨時休館とした山田図書館に移動図書館車を臨時運行させることで、近隣の利用者の方へ資料貸出等の機会を提供しました。また、図書館システム等のリプレースと併せて、各館にサーマルタブレット導入等を行い、コロナ禍においても安心して利用できる図書館サービスが提供できました。</p>				
事務局自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性	○			
<p>【自己評価の根拠】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 施設利用者数：30,664人（教育アクションプラン目標値：62,900人） ・ 年間貸出冊数：108,579冊（教育アクションプラン目標値：201,900冊） ・ 移動図書館車の貸出冊数：10,616冊（教育アクションプラン目標値12,600冊） ・ 市民一人当たりの貸出冊数：2.77冊（教育アクションプラン目標値5.5冊） <p>緊急事態宣言に伴う臨時休館及び山田図書館特定天井改修工事に伴う臨時休館により、全体的な図書館利用の指標については目標値を大きく下回っておりますが、その中でも移動図書館車の臨時運行等新しい取組を行うことで、少しずつでも読書環境が提供できたと考え、事業の効果をB評価としています。事業の効率性につきましては、システムリプレースと併せてコロナ対策を行ったことで導入経費の削減が図られたことからA評価としています。</p>					
今後の方向性	安心して利用していただける図書館施設で、充実した図書館サービスを効率的・継続的に提供するために、指定管理者制度の導入を進めます。				
令和3年度の課題	令和4年度からの指定管理者制度導入に向けて、条例改正及び業者選定等を行い、これまでの図書館サービスはもちろん、提案いただく新しい視点での利用者サービスも導入し、快適に利用していただける読書環境づくりを図ってまいります。				
<p>【評価委員の意見】 各館にサーマルタブレット等を導入し、安心して利用できるようにコロナ対策が徹底されているとわかりました。</p>					
教育委員会評価		今回		A	
		(前回)		(A)	

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策 4 生涯学習の実現を目指す社会教育の推進

(3) 図書館の利用促進

事業名 (予算/決算)	[46] 読書活動推進事業 (生涯学習課：図書館係) (予算：291千円 / 決算：268千円)				
目的	おはなし会・講座・読書講演会等、市民の読書活動のきっかけづくりとなる事業を開催し、読書活動の推進及び図書館利用の促進を図ることを目的とします。				
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ブックスタート事業・絵本ですくすく講座・定例おはなし会・赤ちゃんタイム ・朝の読書活動支援（小学校）・ブックトーク（小・中学校・土曜未来塾） ・おはなし工作会・夏休みイベント・一日図書館員・職場体験の受入れ ・らくらく読書会・読書講演会・映画会 				
令和2年度の課題と取組	<p>【課題等】 子どもの読書習慣の基礎が作られるよう、家庭や地域、学校と連携して取り組んでいきます。特に乳幼児期の読書習慣が重要と考え、継続した読書活動の涵養を図り、家庭や地域、学校図書館はもとより、他部署とも連携を深めながら本に親しむ機会を広く提供していきます。</p> <p>【課題等への取組】 乳幼児期の読書習慣のために、可能な範囲でブックスタート事業を実施し、家庭で絵本に触れる機会の重要性について働きかけを行いました。コロナ禍において、学校との連携が難しく、また他部署と連携しての事業等が難しい状況でしたが、図書館の中で感染対策を講じながらおはなし会等を開催し、本に触れる機会を少しずつ提供してまいりました。</p>				
事務局自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性		○		
【自己評価の根拠】 ・おはなし会1回当たりの参加者数：5.3人（教育アクションプラン目標値：13.1人） ・読書講演会参加者数：未実施（教育アクションプラン目標値：60人） ・ブックスタート配布率：100%（教育アクションプラン目標値：100%） コロナ禍において大規模な読書講演会は実施しておらず、またおはなし会の平均参加者数も目標値を大幅に下回っておりますが、対策を講じた上で実施可能な内容で本に触れるきっかけづくりを行っていることから、事業の効果はB評価としております。事業の効率性については、新しい生活様式の中で、本に親しむ新しい機会を検討する必要があることからB評価としています。					
今後の方向性	コロナ禍において家庭で過ごす時間も多くなっている現在、家族で本に親しむきっかけづくりとなる機会を提供していきます。これまで多くの人に参加していただくような内容を検討してきましたが、新しい生活様式に合わせた事業が開催できるよう見直していく必要があります。				
令和3年度の課題	新しい生活様式のなかで、人数を制限しながらも、参加された方が充実した時間を過ごし、読書への興味関心をもつきっかけとなるような機会を提供できるようテーマや開催方法等を見直し、少人数でも効果的な事業となるよう検討していきます。				
【評価委員の意見】 コロナ禍の中、読み聞かせもリモートやオンラインの活用も必要ではないでしょうか。					
教育委員会評価		今回		B	
		(前回)		(A)	

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策 4 生涯学習の実現を目指す社会教育の推進

(3) 図書館の利用促進

事業名 (予算/決算)	[47] 図書ボランティア養成及び活動支援事業 (生涯学習課：図書館係) (予算：— / 決算：—)				
目的	図書館事業の推進に必要な図書ボランティアの養成、活動支援を行うことを目的とします。				
事業内容	新規ボランティアの養成及び既存ボランティアの支援並びに嘉麻市図書ボランティア連絡協議会の活動支援を行っています。 ・読書ボランティアスキルアップ研修 ・読書ボランティア養成講座 ・嘉麻市図書ボランティア連絡協議会（総会、研修会開催支援等）				
令和2年度の課題と取組	【課題等】 子どもの読書活動を促進するためには、ボランティアの皆様の長期的・継続的な協力が重要です、ボランティアの皆様が無理なくスムーズに活動できるよう、図書館として支援を続けていく必要があります。 【課題等への取組】 コロナ禍において、各種行事が中止になり、読書ボランティアの皆様も活動を見合わせたことから、併せて研修等の開催も中止することとしました。				
事務局自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性		○		
【自己評価の根拠】 ・ボランティア養成講座参加者数：未実施（教育アクションプラン目標値：14人） ・ボランティアスキルアップ講座参加者数：未実施（教育アクションプラン目標値：22人） ・ボランティア活動参加者数：63人（教育アクションプラン目標値54人） ボランティア養成及び活動支援事業の必要性はA評価ですが、コロナ禍の現状では、まず安全に安心してボランティア活動ができる環境づくりが必要であり、現状のまま講座等開催しても効果、効率性ともに見込まれず、現段階で可能な支援は情報提供や連絡調整等であると考え、B評価としております。					
今後の方向性	子どもの読書活動を促進するためには、ボランティアの皆様の長期的・継続的な協力が重要です。図書館としては、ボランティアの皆様が安心して無理なく継続した活動できるよう支援を続けていく必要があります。				
令和3年度の課題	現在活動されているボランティアの皆様の活動状況について連絡調整を図り、要望等調査しながら、活動再開時期と合わせて、必要とされる活動及びスキルアップの機会を提供する必要があります。				
【評価委員の意見】 意見はありませんでした。					
教育委員会評価		今回		B	
		(前回)		(A)	

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策5 体力及び運動能力向上の推進

(1) スポーツによる地域の活性化

事業名 (予算/決算)	[48] スポーツコミュニティ創造事業 (スポーツ推進課：プロジェクトK・スポーツ推進係) (予算：7,628千円 / 決算：4,717千円)				
目的	スポーツと健康運動を通じて、市民一人ひとりの潜在的能力の向上を図るとともに、地域における市民の主体的な活動を促進し、地域力が向上することを目的とします。				
事業内容	スポーツの社会的意義の重要性を広めるとともに、スポーツを通じた地域の主体的かつ継続的な取組みを促進するため次の事業を実施します。 ①スポーツ推進委員・指導者を派遣します。 ②スポーツに関する身近な情報を提供します。 ③スポーツサークルの設立を支援します。 ④誰もが参加できるスポーツ教室を開催します。				
令和2年度の課題と取組	【課題等】 コミュニティ創造事業や教室などの周知の見直しを行い、参加者が固定することなく、新規の参加者の拡充を目指します。 【課題等への取組】 嘉麻市社会福祉協議会のふれあい・いきいきサロンだけでなく、嘉麻川学習会など地域のイベントに出向き、軽スポーツを行うなど対象を拡充しました。				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性		○		
【自己評価の根拠】 国や福岡県のスポーツに関する計画においても、スポーツを通じた共生社会・健康長寿社会の実現が重要施策として位置づけられていますので、事業の必要性は「A」評価としています。 新型コロナウイルスの感染が拡大し、緊急事態宣言が発令されるなかでも、限られた機会を活かしてコミュニティ創造事業の拡充を図りました。 事業効果は「A」、効率性は「B」評価としています。 ・スポーツ指導参加者数(目標値1,000人)：182人(親子ふれあい運動教室1回11人、サロン出前講座：平日15回148人、土日1回14人、その他の派遣事業：1回9人) ・コミュニティ育成支援団体数(目標値3団体)：12団体 ・各種教室参加者数(目標値1,500人)：623人(健康運動教室：40回623人) ※人数は延べ人数					
今後の方向性	コーディネーショントレーニングと、高齢者の方でも気軽にできるスポーツによる地域コミュニティの再生と活性化を目的として、引き続き地域に定着した取組みを行うとともに、その推進役となるスポーツ推進委員と地域活動指導員を対象に研修を行うなど、指導スキルの向上を図ります。				
令和3年度の課題	新型コロナウイルスの感染拡大防止を徹底しながら、ふれあい・いきいきサロンや公民館事業など地域のイベントでの普及活動を行います。				
【評価委員の意見】 意見はありませんでした。					
教育委員会評価		今回		A	
		(前回)		(A)	

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策5 体力及び運動能力向上の推進

(1) スポーツによる地域の活性化

事業名 (予算/決算)	[49] スポーツ大会誘致・スポーツ大会支援事業 (スポーツ推進課：施設管理運営係) (予算： — / 決算： —)				
目的	スポーツに関係する多くの人々が嘉麻市を訪れ、スポーツを行い、観るとともに地域の人々と交流し、本市の豊富な自然環境と観光資源に触れ、親しんで帰ってもらうことで、地域活性化につなげることを目的とします。				
事業内容	スポーツ大会やスポーツ合宿の機会を活用するため、関係機関と連携して特産品販売などPRの場を設け、交流人口の増加と地域の活性化につなげます。 また、大会の支援を行い、市民の運営や企画への参加を促します。				
令和2年度の課題と取組	<p>【課題等】 スポーツ大会や合宿誘致について、関係団体への働きかけと施設の情報提供を広く行うこととあわせて、宿泊施設等と連携し、さらなる交流人口の増加に努めます。</p> <p>【課題等への取組】 令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大により、例年行われている嘉麻シティマラソンが開催中止、全国高校駅伝福岡県大会は会場が変更となりました。また、その他大会等においても自粛により中止や延期が相次ぐなか、幅広く施設情報を提供するため、休館情報や開館情報等をホームページや貼り紙、SNSで発信するなどし利用者への情報提供に努めました。 また、感染症対策を徹底し休館中にも施設管理人や清掃業者と連携し、施設内の衛生管理に努めました。</p>				
事務局自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性		○		
	<p>【自己評価の根拠】 スポーツイベントの開催や大会などの誘致や支援を行うことによって、市民に「見る」スポーツの楽しさを提供し、スポーツへの関心、理解を深めスポーツに参加する契機となる役割を果たす必要性の高い事業のため、事業の必要性は「A」評価としています。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大による、施設休館や利用時間の短縮、利用者の制限、利用の自粛などがあったことをうけ、県リーグ（フットサル）を誘致、陸上の合宿を行いました。交流人口は、4,866人、大会参加者数は3,408人となり、目標とする大会・合宿による市外利用者数（交流人口）12,000人、支援大会の参加者数7,700人を下回ったため、事業の効果、事業の効率性は「B」評価としています。</p>				
今後の方向性	新型コロナウイルス感染症の影響により、利用者の減少が見込まれるため、ホームページなどを利用して広く情報提供をし、施設を活用した交流人口の増加に努めます。				
令和3年度の課題	新型コロナウイルス感染症の影響により、引き続き利用者の減少が見込まれる中、いつでも利用者を安全・安心して受け入れが出来るよう、衛生管理や安全管理をする必要があります。				
	<p>【評価委員の意見】 意見はありませんでした。</p>				
教育委員会評価		今回	B		
		(前回)	(A)		

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し

■主要施策5 体力及び運動能力向上の推進

(2) スポーツ環境の整備

事業名 (予算/決算)	[50] スポーツ環境創成事業 (スポーツ推進課：プロジェクトK・スポーツ推進係) (予算：449千円 / 決算：449千円)				
目的	家庭や学校、自然の中など身近な場所での運動を進め、「市内のいたるところがスポーツ環境であること」という意識改革を目的とします。				
事業内容	自然豊かで文化性に満ちた市内の環境を再発見するとともに、ジョギング、ウォーキングなどの手軽な運動に最適な運動環境を整備し、情報提供を行うことで市民の利用を促進します。 また、子どもの成長を促し心に刺激を与えるような環境づくりを目指し、全国でも例のないアイデアに満ちたスポーツ環境施設を創成します。				
令和2年度の課題と取組	【課題等】 イベント参加者の増加ではなく、ウォーキング人口が増加するような取り組みが必要です。 【課題等への取組】 織田慶喜美術館周辺に徳島大学名誉教授荒木秀夫教授監修のウォーキングコース案内看板を設置しました。				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性		○		
【自己評価の根拠】 アンケートによると市民の30%は「スポーツをしていない」と回答しています。その内、50%は「時間不足」、30%は「機会不足」と回答しています。また、社会体育施設の利用者の固定化を解消するためにも、身近な場所で簡単に行える運動の機会の提供は重要であり、必要性は「A」評価としています。 嘉穂地区・山田地区・稲築地区に続き、今年度は碓井地区の織田慶喜美術館周辺にウォーキングコース案内板を設置しました。ウォーキング人口の増加を図るためには更なる環境の整備、情報提供の充実が必要です。事業の効果・効率性は「B」評価としています。 新型コロナウイルスの感染が拡大し、緊急事態宣言が発令されるなどの影響からイベントや研修が中止となりました。 ・脳機能発達を目指した生活環境改善に関する研修会の開催件数(目標値2件)：0件 ・ジョギング・ウォーキングコース設定件数(目標値2件)：1件 ・ジョギング・ウォーキングイベント回数(目標値2件)：0回					
今後の方向性	市民の運動に対する意識啓発のため、身近な場所で簡単に行える運動の機会を提供し、引き続きウォーキング等のコースを作成するなど、情報の提供を行います。また、歩数管理できる「ふくおか健康ポイントアプリ」の活用などを呼びかけます。				
令和3年度の課題	新型コロナウイルスの感染状況などを考慮しながら、ジョギング・ウォーキングイベントの開催など市民の意識改革につながる取り組みが必要です。				
【評価委員の意見】 意見はありませんでした。					
教育委員会評価		今回		B	
		(前回)		(B)	

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策5 体力及び運動能力向上の推進

(2) スポーツ環境の整備

事業名 (予算/決算)	[51] 社会体育施設管理運営事業 (スポーツ推進課：施設管理運営係) (予算：287,774千円 / 決算：168,304千円)				
目的	市民のニーズに応じた、より快適なスポーツ活動の場を提供することを目的としています。				
事業内容	スポーツ施設の整備を効果的かつ効率的な管理運営と、市民ニーズに対応するため施設の整備などの検討を行い、適正化を図ります。				
令和2年度の課題と取組	【課題等】 施設全体の老朽化が進んでいるため、利用状況を踏まえながら引き続き計画的に補修、修繕を行っていく必要があります。 【課題等への取組】 2020年に水銀灯の製造及び輸入が中止になったことに伴うLED照明への取替工事や特定天井の改修工事など、今後見込まれる大規模改修工事について年次計画を作成しました。				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性	○			
【自己評価の根拠】 社会体育施設の効果的かつ効率的な維持管理を行うことで、快適なスポーツ環境を提供することができ、市民の健康増進や体力向上、生涯スポーツを推進するうえで必要性の高い事業のため、事業の必要性は「A」評価としています。 施設の管理については、山田野球場照明制御盤取替工事ははじめ、スポーツ振興くじ助成金を活用して嘉穂総合体育館のトレーニング機器を3台購入したほか、嘉穂陸上競技場の第4種公認更新に必要な投擲囲いを購入し、あわせて令和3年3月末で期限となっていました筑豊地区で唯一の公認競技場である嘉穂陸上競技場の公認更新を行いました。 令和2年度の体育施設の利用者数は、新型コロナウイルス感染症の拡大による、施設休館や利用時間の短縮、利用者の制限、利用の自粛などがあったことをうけ、192,187人と目標の418,000人を下回りましたが、必要不可欠な改修を進めた点において、事業の効果、事業の効率性は「A」評価としています。					
今後の方向性	子どもから高齢者、障がい者に至るすべての利用者が安心して利用できるような適切な補修・改修をおこない、快適にスポーツを行える場所や機会を提供することで、市民の健康増進、地域の活性化を図っていきます。				
令和3年度の課題	サルビアパーク空調改修工事や碓井屋内ゲートボール場照明取替工事等大規模改修の実施にあたり、施設の利用停止や休館を行う際に利用者への支障が少ない工事内容の検討・スケジュールの調整を行う必要があります。				
【評価委員の意見】 意見はありませんでした。					
教育委員会評価		今回		A	
		(前回)		(A)	

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策5 体力及び運動能力向上の推進

(3) 生涯スポーツの推進

<p>事業名 (予算/決算)</p>	<p>[52] プロジェクトK事業 (スポーツ推進課：プロジェクトK・スポーツ推進係) (予算：6,026千円 / 決算：2,104千円)</p>				
<p>目的</p>	<p>乳幼児から高齢者、障がい者に至るすべての市民を対象に、脳科学、認知科学などに基づいたコーディネーショントレーニングを導入することにより、体力・運動能力の発達だけでなく、知的能力の発達、情緒的な安定や創造性豊かな人格形成等を図ることを目的とします。</p>				
<p>事業内容</p>	<p>すべての市民に対応できるコーディネーショントレーニングのプログラムを構築し、その普及を行います。</p>				
<p>令和2年度の課題と取組</p>	<p>【課題等】 小学校教員が主体的に取り組むことができるよう新学習指導要領体育編に基づいたコーディネーショントレーニング指導書の作成。 中学生から高齢者、障がい者までの階層に対するトレーニングの普及。 【課題等への取組】 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、コーディネーショントレーニング指導書の作成が延期となりましたが、スポーツくじ助成金を活用し、徳島大学名誉教授荒木秀夫教授監修のもと、コーディネーショントレーニングDVD～高齢者編～を作成しました。</p>				
<p>事務局 自己評価</p>	<p>【評価項目】</p>	<p>A</p>	<p>B</p>	<p>C</p>	<p>D</p>
<p>事業の必要性</p>	<p>○</p>				
<p>事業の効果</p>	<p>○</p>				
<p>事業の効率性</p>	<p>○</p>				
<p>事務局 自己評価</p>	<p>【自己評価の根拠】 本事業はコーディネーショントレーニングを全ての市民に普及することにより、人材育成、さらには地域の活性化に繋げる全国でも類を見ない取組みです。特に子どもに対する教育施策の充実は、過疎化が進む本市において、定住人口の増加を目指す上で最重要事項ですので、事業の必要性は「A」評価としています。 指導書については新型コロナウイルスの感染状況等を考慮し、令和3年度も継続事業としました。コーディネーションDVD～高齢者編～については、市内の各公民館、高齢者福祉施設に配布しました。事業効果・効率性は「A」評価としています。 ・乳幼児施設コーディネーショントレーニング導入率(目標値100%)：65%(11/17) ・小学校コーディネーショントレーニング導入校数(目標値8校)：8校 ・中学校コーディネーショントレーニング導入校数(目標値3校)：5校</p>				
<p>今後の方向性</p>	<p>コーディネーショントレーニングの普及は、各階層の指導者の育成を基本とします。引き続き、研修会を受講した指導者が継続的に、かつ個別課題に応じて実践できるような取組み、また、指導者相互のネットワーク構築を図り、コーディネーション理論とスキルの向上を目指す取組みを推進します。</p>				
<p>令和3年度の課題</p>	<p>新型コロナウイルスの感染状況を考慮しながら、小学校教員用指導書の作成は継続し、高齢者へのコーディネーショントレーニングの普及、乳幼児施設への導入率向上が課題です。</p>				
<p>【評価委員の意見】 意見はありませんでした。</p>					
<p>教育委員会評価</p>		<p>今回</p>	<p>A</p>		
		<p>(前回)</p>	<p>(A)</p>		

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策5 体力及び運動能力向上の推進

(4) 競技スポーツの推進

事業名 (予算/決算)	[53] 競技スポーツ推進事業 (スポーツ推進課：プロジェクトK・スポーツ推進係) (予算：8,773千円 / 決算：2,659千円)				
目的	誰もが、自らの目標に即してスポーツ競技力を伸ばそうとするスポーツ文化を広めるとともに、小・中・高校生からの優れた体力・運動能力、さらには運動学習能力、潜在的能力を豊かに伸ばしていくことを目的とします。				
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・公的な各種スポーツ競技大会を開催します。また、子ども達を対象に、普段、経験したことのないスポーツ体験会を開催します。 ・スポーツに関心を寄せ、楽しさを見い出すトップアスリートとの交流会を開催します。子ども達のタレント発掘と競技力育成に関わる事業を展開し、全国や世界で活躍できるスポーツ選手の育成に取組みます。 ・スポーツ指導者、スポーツ推進委員、教員、保育士、一般市民を対象にした身近なスポーツ科学、運動科学、栄養学、コーディネーショントレーニングなどに関する学習会、研修会を開催します。 				
令和2年度の課題と取組	【課題等】 荒木式スポーツコーディネーショントレーニング教室については、3年間試行しましたので事業総括を行い、今後の取り組みについて検討します。また、競技スポーツ教室については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、イベントの重要性などを十分に考慮し、企画します。 【課題等への取組】 新型コロナウイルスの感染拡大や緊急事態宣言が発令されたことにより、企画していた教室等が中止せざるを得なくなりましたが、その中でもスポーツ指導者等への研修会を行いました。				
事務局自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性		○		
【自己評価の根拠】 競技スポーツの発展は、市民のスポーツへの関心や参加意欲を促し、市のスポーツ振興に大いに貢献するものと考えられますので、事業の必要性はA評価としています。 新型コロナウイルスの感染拡大や緊急事態宣言が発令されたことにより、予定されていたスポーツ教室や研修会が開催中止となりましたので、事業効果、効率性ともに「B」評価としています。 <ul style="list-style-type: none"> ・未経験の競技体験会（目標値2回）：0回 ・競技スポーツ教室（目標値2回）：0回 ラグビー教室については、コカ・コーラレッドスパークスの選手を講師に招いた教室を行う予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止となりました。 ・スポーツ指導者等研修会（目標値10回）1回 					
今後の方向性	競技人口の増加を目指し、市民のスポーツへの関心や参加意欲を高める事業を推進するとともに、子どもの競技力向上を目指した事業を推進します。				
令和3年度の課題	競技スポーツ教室についてはバドミントン教室を予定していますが、新型コロナウイルス感染拡大の状況を見極めながら、イベントの安全性などを十分に考慮し企画します。				
【評価委員の意見】 意見はありませんでした。					
教育委員会評価		今回		B	
		(前回)		(A)	

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策 6 人権尊重精神を育成する教育の推進

(1) 学校教育における人権・同和教育の推進及び支援

事業名 (予算/決算)	[54] 人権・同和教育推進事業 (学校教育課：教務係) (予算： - / 決算： -)				
目的	福岡県人権教育・啓発基本指針及び嘉麻市人権教育・啓発基本指針に基づき、学校教育活動全体を通して、児童生徒が共生の心を身につけるとともに、自分らしさや能力を十分に発揮し、人権問題を主体的に解決していく力を身につけることができるよう指導していきます。				
事業内容	学校における人権教育の指導の充実を図ります。				
令和2年度の課題と取組	<p>【課題等】 教職員の人権問題、同和问题に対する認識を深め、すべての人の基本的人権を尊重する教育活動を推進することができるよう、全教職員を対象にした研修会を実施します。また、教科や領域の中で児童生徒の人権意識が高まるような授業づくりを推進します。</p> <p>【課題等への取組】 人権・部落問題の解消に向けた教職員の認識を深めるための人権・同和教育研修会（市全体）は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、実施できませんでしたが、各学校における校内研修を人権・同和教育担当者と連携し、推進していきました。</p>				
事務局自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性		○		
<p>【自己評価の根拠】 各学校での人権・同和教育全体計画の改善・実施の目標値に対して、13校実施できており、目標を達成することができました。各学校ともそれぞれの課題解決に向け、人権教育の全体計画に基づき、人権・同和教育の推進に努めました。</p> <p>また、人権・同和教育研修会（市全体）は実施できませんでしたが、平成30年度に実施したアンケートの結果をもとに、同和问题や個別の人権課題について各校の実態に即した校内研修を実施することができました。</p>					
今後の方向性	学校教育活動全体を通して、児童生徒が共生の心を身につけるとともに、自分らしさや能力を十分に発揮し、人権問題を自身の課題と捉え、主体的に解決していく力を身につけることができるよう人権・同和教育の推進に努めます。				
令和3年度の課題	今後も、教職員の人権問題、同和问题に対する認識を深め、すべての人の基本的人権を尊重する教育活動を推進することができるよう、全教職員を対象にした研修会を実施します。また、教科や領域の中で児童生徒の人権意識が高まるような授業づくりを推進します。				
<p>【評価委員の意見】 意見はありませんでした。</p>					
教育委員会評価		今回		B	
		(前回)		(B)	

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策 6 人権尊重精神を育成する教育の推進

(2) 社会教育における人権・同和教育の推進及び支援

事業名 (予算/決算)	[55] 人権・同和教育推進事業 (生涯学習課：人権・同和教育係) (予算：1,529千円 / 決算：675千円)				
目的	部落問題をはじめ女性、子ども、高齢者、障がい者、アイヌの人々、外国人、HIV感染者、性的少数者等に対する人権課題を解決し、人権尊重社会の実現に向け、嘉麻市人権教育・啓発基本方針に基づき、社会教育における人権・同和教育を一層推進するとともに、市内の各種団体等の協力を得ながら、行政区単位地域研修会、団体・サークル等研修会、企業内人権・部落問題研修会を実施します。また、関係行政機関及び地域活動指導員（人権・同和教育指導員）との連携を行い、社会教育における人権に関する学習を推進します。				
事業内容	嘉麻市の人権・同和教育の推進を図るため、市内各行政区をはじめ、団体・サークル等、企業や市職員の人権・部落問題研修会を実施し、人権・部落問題に関する意識の向上を図っています。				
令和2年度の課題と取組	【課題等】 社会における人権問題全般についてはもちろんのことですが、身近な人権に対する関心を高めていくことが必要であります。部落問題をはじめ様々な人権問題の研修内容等の工夫と学習機会の充実を図る必要があります。 【課題等への取組】 市民に向けた人権・部落問題研修会を継続開催しました。加えて、各地区公民館と連携し周知を図り、多様な学習機会を提供しました。また、社会状況に応じた個別の人権課題に関する研修資料等を作成するなど学習内容の工夫改善に努めました。				
事務局自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性		○		
【自己評価の根拠】 コロナ禍において、人権・同和教育指導員が研修内容の創意工夫を図り、行政区や団体・サークル等、さらに各地区公民館と連携した研修会等々の事業の中で人権研修会を継続実施予定しておりましたが、感染状況により、多くの研修会が余儀なく中止となり、目標値である研修会開催数は達成出来ておりません。しかしながら、総体的にこれまでの取組みにより、人権研修会の開催については定着しつつあることも確かです。それゆえに、市民の人権意識の向上が図れていると捉え、効果・効率性の評価をBとしています。 【主な取組み】 ・人権・部落問題地域研修会 3行政区 27名 ・企業・団体等人権研修会 5団体 92名					
今後の方向性	市民一人ひとりが部落問題をはじめとする様々な人権問題について、自らの問題として捉え、正しい認識や理解を深める学習会や研修会を様々な機会を捉えて、継続開催に努めていきます。				
令和3年度の課題	コロナ禍における研修会ではありますが、開催検討を促すような働きかけや社会状況に応じた人権教育・啓発の検討が必要です。また、部落問題をはじめ様々な人権問題の研修内容等の工夫と学習機会の充実を図る必要があります。				
【評価委員の意見】 意見はありませんでした。					
教育委員会評価		今回		B	
		(前回)		(B)	

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策 6 人権尊重精神を育成する教育の推進

(2) 社会教育における人権・同和教育の推進及び支援

事業名 (予算/決算)	[56] 人権・同和教育推進少年団体育成事業 (生涯学習課：人権・同和教育係) (予算：3,000千円 / 決算：3,000千円)				
目的	人権感覚の涵養と差別をなくしていこうとする子どもの育成を図るため、解放子ども会を支援し、解放子ども会に参加する一人ひとりが、人権・部落問題について正しい認識と理解を深める活動を推進します。				
事業内容	部落差別をはじめ、あらゆる差別をなくすことを主たる目的として活動する団体が企画運営する解放子ども会事業に、嘉麻市解放子ども会事業補助金交付規程に基づき補助金を交付します。 学習活動を学校と協議、連携し支援しています。				
令和2年度の課題と取組	【課題等】 子どもたちが部落問題学習で学んだことや感じたことを通じて、自分なりの考えが持てるような深まりある学習活動となるよう、継続して小・中学校と協議、連携し取組む必要があります。 【課題等への取組】 小・中学校と緊密な連携を図りながら、関係団体等と事業展開の情報共有を常に行うことで、子どもたちの部落問題についての正しい認識と理解が深まる活動の継続支援を行いました。				
事務局自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 関係団体等と事業展開の情報共有を常に図っております。また、小・中学校と連携し、子どもたちの部落問題学習が深まる活動となるよう学習計画立案の段階から協議の場を設けました。さらに、学習の場においては、指導者の補助的役割や子ども達の自主性・主体性が育めるように導く等、活動に対して助言等を行い、効果・効率性の向上を図りました。しかし、目標値設定は、従前の事業で行った場合の数値であり、目標値を下回っていることから、効果・効率性の評価をBとしています。				
後の方向性	部落差別をはじめ、あらゆる差別をなくすことを主たる目的として活動する団体が企画運営する解放子ども会事業において、子どもたちの部落問題学習が深まる活動となるよう、注視及び継続支援を図っていきます。				
令和3年度の課題	子どもたちの部落問題学習が深まる活動となるよう、関係団体や小・中学校とより一層緊密な連携を図り、事業展開を構築していく必要があります。				
【評価委員の意見】 意見はありませんでした。					
教育委員会評価		今回		B	
		(前回)		(B)	

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策 6 人権尊重精神を育成する教育の推進

(2) 社会教育における人権・同和教育の推進及び支援

事業名 (予算/決算)	[57]人権・同和教育推進団体育成事業 (生涯学習課：人権・同和教育係) (予算：1,207千円 / 決算：784千円)				
目的	解放学級及び日常生活で文字の読み書きに不自由している人々を対象にした識字学級を開催し、学級生一人ひとりが、人権・部落問題について更なる正しい認識と理解を深める学習や学級活動を推進します。				
事業内容	稲築・碓井・嘉穂地区において、解放学級を開催し、人権・部落問題についての学習を行うとともに、碓井地区においては、識字学級を開催することにより文字の読み書き学習を支援しています。				
令和2年度の課題と取組	【課題等】 学級生の自主的・主体的な学習活動を今後も継続的な支援をする必要があり、学校や学級代表者と情報共有を図りながら、部落問題をはじめとする様々な人権問題等の学習内容について、更なる工夫・改善を図る必要があります。 【課題等への取組】 学校と協力体制を図りながら地域住民の自主的・主体的な学習活動を継続して支援を行いました。また、地域のニーズを推し測りながら、様々な人権に関する文献や資料等の調査・研究に努め、多様な媒体を活用しました。				
事務局自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性		○		
【自己評価の根拠】 目標値である学級数は昨年度からの変動はありませんでしたが、このコロナ禍において、解放学級2学級、識字学級のための開講となり、自主的・主体的な学習活動の継続が難しい1年でした。しかし、学びの継続に繋がるよう「学級だより」を発行。休講の学級生へ配付しました。そのことで、学級生一人ひとりが人権・部落問題について更なる正しい認識と理解が深まる活動になったと捉えています。また、識字学級においては、コロナ禍における感染状況に応じて学習の場と機会の確保を図り、さらに様々な教材を活用することで、学級生それぞれが学習内容を深めることが出来ました。そのため、効果・効率性の評価をBとしています。					
今後の方向性	社会の変化に伴い多様化する厳しい差別の現実には打ち克つ力を身に付けるため、一人ひとりが継続して自ら気づき、考え、行動する力を培う学習活動を継続して支援します。				
令和3年度の課題	コロナ禍において人権学習が寸断されることなく、学習の機会を持つよう意識になれるよう働きかけ、学習活動を引続き支援していく必要があります。				
【評価委員の意見】 コロナ禍により休講となったところへ、「学級だより」を発行して意識向上をさせたことは、良いことだと思います。今後も、いろいろなアイデアを生かしてやってもらいたいです。					
教育委員会評価		今回		B	
		(前回)		(B)	

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策7 市民文化の創造

(1) 美術に関する創造的活動の推進

事業名 (予算/決算)	[58] 文化芸術活動推進事業 (生涯学習課：美術館係) (予算：－ / 決算：－)				
目的	市民が美術館を身近なものに感じ、文化芸術作品の鑑賞・創作する機会及び展示発表に活用できる場の充実に努めます。				
事業内容	アトリエでの創作活動を支援するとともに、主体的、自主的に活動を行う美術団体などの展示活動を支援し、様々な芸術作品の鑑賞の場を提供します。学校や地域と連携し、子どもたちの芸術鑑賞や創作活動を支援します。				
令和2年度の課題と取組	<p>【課題等】 学校の出前授業などで活用できるメニュー作成に取り組むことが必要です。</p> <p>【課題等への取組】 メニュー作成に取り組みましたが、学習指導要領や小学校の授業内容に沿ったプログラムの作成にするため、内容を見直し作成することにします。</p>				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 ・貸館展入館者数 : 1,006人 (目標数値：5,300人) ・貸出用展示室利用団体数 : 3団体 (目標数値：10団体) ・市民アトリエ利用団体数 : 4団体 (目標数値：12団体) ・美術館を活用した学校数 : 1校 (目標数値：10校) ・地域等での活動支援回数 : 0回 (目標数値：5回) 貸館事業の大部分や学校や地域での鑑賞や創作活動は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となりました。少し落ち着いた11月末に筑豊地区中学校総合文化祭美術文化作品展、2月に嘉麻市書初め大会作品展が感染症拡大防止対策の中、開催され、多くの方が来館し次年度へ希望をつなぎました。				
今後の方向性	市民の美術に関する創作活動、展示発表を支援します。				
令和3年度の課題	今年も、貸出用展示室での事業中止が相次いでいますが、学校や地域と連携し感染症予防対策を取りながら、子どもたちの芸術鑑賞や創作活動を支援します。				
【評価委員の意見】 コロナ感染対策を行いながら、イベントを実施していただいたことで、子どもたちの学習や体験の機会を与えられたことは良いことだと思いました。これからも続けていただきたい。					
教育委員会評価		今回	B		
		(前回)	(A)		

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策7 市民文化の創造

(1) 美術に関する創造的活動の推進

事業名 (予算/決算)	[59] 美術館運営管理事業 (生涯学習課：美術館係) (予算：34,215千円 / 決算：31,611千円)				
目的	人々が芸術活動や憩いの場として、美術館や公園を快適かつ安全で安心して活用できるよう、管理運営を行う。				
事業内容	美術館及び隣接する公園を安全で安心して活用できるよう維持管理を行うとともに、適切な環境の中で収蔵、展示作品の保存管理を行います。				
令和2年度の課題と取組	【課題等】 適切な管理運営に向けて、今後の方向性を明らかにすることが必要です。 【課題等への取組】 美術館がふるさとに誇りを持てる教育・芸術文化のまちづくり、観光の新たな拠点施設として更なる活用が図れるよう、令和4年度からの指定管理者制度導入に向け、取り組めます。				
事務局自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 ・入館者総数 : 2,301人 (目標数値：14,000人) ・貸出用展示室及び市民アトリエ貸出時間 : 145.5時間 (目標数値：720時間) 市新型コロナウイルス感染症対策本部会議の指示に従い、感染拡大防止対策を徹底し来館者対応、事業に取り組めました。コロナ禍のため展示室や市民アトリエの利用者数は激減しましたが、2団体の市民アトリエ利用と3団体の展示室利用、1小学校、1保育園の作品鑑賞があり、安心して施設を利用することができました。また、多くの家族や人々が公園を活用し、休日を楽しむことができました。 収蔵庫の温湿度の調整や、作品の虫菌害防止のため収蔵庫4の燻蒸を行い、収蔵作品の適切な管理を行いました。また、収蔵作品の修復やデジタル化を行い、円滑な作品管理と今後の活用を図りました。 指定管理者による管理運営に向け、先進地視察や企画財政課、管財課と事前協議を行い、織田廣喜美術館運営協議会にて説明し了解を得ました。				
今後の方向性	安定した美術館の管理、運営と収蔵展示作品の維持管理と活用を図ります。				
令和3年度の課題	平成4年度の指定管理者導入に向け業務を進めます。				
【評価委員の意見】 より良い形で指定管理者制度が始められるように、検討していただきたいと思います。					
教育委員会評価		今回		A	
		(前回)		(A)	

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策7 市民文化の創造

(1) 美術に関する創造的活動の推進

事業名 (予算/決算)	[60] 企画展事業 (生涯学習課：美術館係) (予算：304千円 / 決算：84千円)				
目的	織田廣喜等の収蔵作品や優れた芸術作品の鑑賞機会を提供し、心豊かな感性を育み、文化の向上を図るとともに、観光資源として活用を図ります。				
事業内容	春のコレクション展2020(4月1日～4月8日：6日間) 春のコレクション展2021(3月6日～3月31日：18日間)				
令和2年度の課題と取組	【課題等】 幅広い世代の人々が楽しめる企画展の検討と、収蔵作品を活用したコレクション展を充実させるとともに、事業の周知に努めることが必要です。 【課題等への取組】 コレクション展2021では、「織田廣喜と織田廣喜美術館の人生」をテーマに「LIFE 開館25周年記念展」を開催しました。また、臨時休館を活用し常設展の大規模な作品入替を行いました。周知については広報、新聞、チラシ、ホームページやソーシャルネットワークサービスを活用し行いました。				
事務局自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 特別企画展入館者数： 0人 (目標数値：4,500人) 企画展入館者数： 156人 (目標数値：600人) 特別企画展「中原淳一展」や「県美術展覧会筑豊展」は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となりました。臨時休館を活用し、展示室1、3、4の常設作品の入替や収蔵作品を美術館ホームページから検索できるようになり、コロナ禍でも自宅で作品を見ることができるようになりました。また、グッズ売場の見直しや、エントランスに季節の記念写真撮影コーナーを設ける等、見直しを行いました。 春のコレクション展2021は、すごろく遊びをしながら、収蔵作品鑑賞を楽しみ、織田廣喜美術館の25年の歩みを振り返るとともに、改めて美術館と織田廣喜の魅力を伝えることができました。				
今後の方向性	今後も特別企画展や収蔵作品展を開催し、幅広く優れた芸術作品の鑑賞機会を提供します。				
令和3年度の課題	ホームページやソーシャルネットワーク等を活用し、美術館と事業の周知に努めます。				
【評価委員の意見】 意見はありませんでした。					
教育委員会評価		今回		B	
		(前回)		(B)	

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策7 市民文化の創造

(1) 美術に関する創造的活動の推進

事業名 (予算/決算)	[61] 美術教育普及事業 (生涯学習課：美術館係) (予算：282千円 / 決算：141千円)				
目的	楽しみながら創作活動を行う場を提供し、芸術への興味と関心を深め、豊かな感性と表現力を育むなど美術教育の充実を図る。 美術館の活動に関わる美術館ボランティアの活動を図る。				
事業内容	美術講座の開催 ・アートキッズ(リリアン編み) 全2回(2月)小学生17名と保護者等 ・カリグラフィー講座(講義と実技)全3回(1月・2月)18歳以上12名 ・ボランティア事業(会議、研修会、アートキッズの活動補助)				
令和2年度の課題と取組	【課題等】 今後も実技だけでなく、織田廣喜など収蔵作品と関連した講座内容の検討が必要です。 【課題等への取組】 今年度は、収蔵作品関連でなく、コロナ禍の中、「人と人がつながる」をテーマに感染症拡大防止対策をとりながら子ども・大人対象の事業を行いました。				
事務局自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性		○		
【自己評価の根拠】 ・延べ受講者数 : 32人 (目標値：400人) ・講座数及び講座日数 : 2講座 4日 (目標値：2講座21日) ・ボランティア登録者数 : 6人 (目標値：10名) コロナ禍により、事業着手は遅れ、募集人数や期間を短縮し、新型コロナウイルス感染症拡大防止に努めながら子どもと大人対象の事業を行うことができた。 アートキッズは、珍しく定員を割ったが、初日は広い展示室5や芝生の上でリリアン創作や交流を深め、最後にリリアンで繋がり、2日目は講師による閲覧室での作品展示をライブ配信により自宅でも楽しむことができました。事業にはボランティア3名が参加し、活動を支援しました。 カリグラフィー講座では歴史や文字の形を学び、最後にバレンタインカードを作り交換し、作品を通じて人と人が繋がることができました。					
今後の方向性	創作することの楽しさを実感できるような講座を計画し、できれば、サークル化に繋がります。				
令和3年度の課題	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を徹底しながら講座を計画し開催します。				
【評価委員の意見】 意見はありませんでした。					
教育委員会評価		今回		B	
		(前回)		(A)	

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策7 市民文化の創造

(2) 文化財の保護・継承・活用

事業名 (予算/決算)	[62] 郷土の歴史文化を守る事業 (生涯学習課：文化財係) (予算：7,101千円 / 決算：6,889千円)				
目的	市内に残る多様な文化財を郷土の「たから」として後世に伝え、適切な活用が図れるように、文化財の保護管理に努めることを目的とします。				
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・文化財保護審議会の運営 ・指定文化財等の維持管理 ・指定文化財への補助金交付 ・埋蔵文化財の事前審査 ・各種文化財の調査 				
令和2年度の課題と取組	<p>【課題等】 国指定重要文化財「華文刺縫陣羽織」の一時移管</p> <p>【課題等への取組】 旧嘉穂庁舎の解体に伴い「陣羽織」の移管が喫緊の課題でしたが、「陣羽織」の所有者である大隈町3区（上町区・五日町区・三日町区）と年4回の協議を経て、織田廣喜美術館への一時移管について合意を得ることができました。</p>				
事務局自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性	○			
<p>【自己評価の根拠】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化財保護審議会の開催：2回（教育アクションプラン目標値：3回） ・指定文化財等の維持管理：4件 ・指定文化財の補助金交付：3件 ・埋蔵文化財事前審査：書類審査163件、工事立会5件、試掘調査4件 ・嘉穂地区遺跡群の出土品再整理1,148点及び写真・図面類のデジタル化 ・未指定文化財等の調査：桑野地区リブアーチ型石橋の調査ほか <p>コロナ禍で、会議等の開催見通しが困難な中、喫緊の課題であった「陣羽織」の一時移管については、地元と合意形成を図ることができ、松岡氏庭園の指定案件については、令和3年度の指定申請に向けて準備を進めることができました。また、新たにリブアーチ型石橋の保存要望が、地元から提出されたことを受け、迅速に専門家を招聘し今後の対応について検討しました。</p>					
今後の方向性	旧市町間での文化財保護にかかる格差が解消されていない現状を踏まえ、中長期的な保存活用計画を策定し、計画に基づいた文化財保護行政を行います。				
令和3年度の課題	松岡氏庭園等の管理活用について、地元と協議しながら方向性を定めること				
<p>【評価委員の意見】 意見はありませんでした。</p>					
教育委員会評価		今回		A	
		(前回)		(B)	

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策7 市民文化の創造

(2) 文化財の保護・継承・活用

事業名 (予算/決算)	[63] 郷土の歴史文化を伝える事業 (生涯学習課：文化財係) (予算：4,479千円 / 決算：4,272千円)				
目的	市内に残る多様な文化財の活用を図り、郷土への誇りと愛着を培うとともに、郷土の歴史・文化のPRに努めることを目的とします。				
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 沖出古墳特別公開：10/17 (※コロナ禍のため4月は中止、10月は縮小) ・ 「語り、伝える 戦争の話」(第9回)：10/3 (※コロナ禍のため日程変更) ・ 碓井平和祈念館企画展「戦地からの絵手紙」展：8/1～8/30 ・ 教育普及用冊子等の刊行：『嘉麻の遺跡ブックレット』VOL.3ほか ・ 文化財ボランティアの育成 ・ 団体、学校などへの学習支援・講師派遣等 など 				
令和2年度の課題と取組	<p>【課題等】 文化財ボランティアサークル活動の充実</p> <p>【課題等への取組】 本年度は、コロナ禍の影響で現地研修ができないこともありましたが、オンライン会議を取り入れるなどサークルの例会を5回、研修会2回を実施したほか、観光ガイドセミナーにもサークルで参加し、見聞を広めることができました。</p>				
事務局自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性	○			
<p>【自己評価の根拠】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 沖出古墳特別公開：123名 (教育アクションプラン目標値：300名) ・ 「語り、伝える 戦争の話」：67名 (教育アクションプラン目標値：40名) ・ 碓井平和祈念館企画展「戦地からの絵手紙」展：639名 ・ 学習支援・講師派遣等：12件 (教育アクションプラン目標値：25件) <p>コロナ禍の影響で一部の事業等はアクションプランの目標値を下回りましたが、碓井平和祈念館の事業については、広報等も効率よく実施でき、事業参加者等も教育アクションプランの目標値を上回ることができました。</p>					
今後の方向性	主催事業を抑える代わりに、市民活動や学校教育等への学習支援・講師派遣を充実していきます。				
令和3年度の課題	文化財ボランティアサークル活動の充実 (令和2年度からの継続)				
<p>【評価委員の意見】 意見はありませんでした。</p>					
教育委員会評価		今回		A	
		(前回)		(A)	

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策7 市民文化の創造

(2) 文化財の保護・継承・活用

<p>事業名 (予算/決算)</p>	<p>[64] 郷土の歴史文化拠点施設活用事業 (生涯学習課：文化財係) (予算：9,115千円 / 決算：8,714千円)</p>				
<p>目的</p>	<p>効率的な施設運営を図り、学校教育及び社会教育並びに郷土の歴史・文化のPRに貢献することを目的とします。</p>				
<p>事業内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歴史民俗資料展示・保管施設(4館1室)の維持管理 ・ 収蔵資料(埋蔵文化財を除く)の台帳整備 ・ 収蔵資料の貸出・模写等(画像資料の利用) ・ 寄贈資料の受け入れ ・ 施設統廃合に伴う資料整理と資料移管 				
<p>令和2年度の課題と取組</p>	<p>【課題等】 碓井郷土館収蔵資料の整理</p> <p>【課題等への取組】 碓井郷土館収蔵資料の整理を行い、収蔵庫の空きスペースを増やしました。また、資料活用の効率性を上げるために、他の施設の収蔵資料を碓井郷土館へ一部移管するなど収蔵資料の集約を図りました。</p>				
<p>事務局自己評価</p>	<p>【評価項目】</p>	<p>A</p>	<p>B</p>	<p>C</p>	<p>D</p>
	<p>事業の必要性</p>	<p>○</p>			
	<p>事業の効果</p>		<p>○</p>		
	<p>事業の効率性</p>		<p>○</p>		
<p>【自己評価の根拠】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 歴史民俗資料展示・保管施設(3館)の利用者数：1,819名 ・ 収蔵資料の台帳整備：43点(教育アクションプラン目標値：300点) ・ 資料貸出件数：6件 資料模写等(画像資料の利用)件数：17件 ・ 寄贈資料件数：4件 <p>疫禍の影響で利用者数が減少したほか、指標数値がアクションプランの目標値を下回りましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を適切に行うことで、利用者の感染等を未然に防ぐことができたため、事業の効果および事業の効率性については「B」評価と判断しました。</p> </p>					
<p>今後の方向性</p>	<p>現在の組織体制に見合った規模の施設とするために、施設の統廃合及び機能の見直しについて検討します。</p>				
<p>令和3年度の課題</p>	<p>嘉穂ふるさと交流館の代替施設の検討</p>				
<p>【評価委員の意見】 たくさんある資料の台帳を作るのが、まず1番だと思います。嘉麻市全体を整理する土台となりますので、目標に近づけるようお願いしたいです。</p>					
<p>教育委員会評価</p>		<p>今回</p>		<p>B</p>	
		<p>(前回)</p>		<p>(A)</p>	

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

5. 全体評価結果

(1) 全体評価結果

事務局の自己評価と点検評価委員の意見を踏まえた教育委員会としての評価結果は、下記のとおりとなりました。(全64事業)

	前年度 教育委員会評価		本年度 教育委員会評価
A：期待どおり	46事業 (71.9%)	⇒	37事業 (58.0%)
B：概ね期待どおり	18事業 (28.1%)	⇒	27事業 (42.0%)
C：課題あり	0事業 (0.0%)	⇒	0事業 (0.0%)
D：事業の見直し要	0事業 (0.0%)	⇒	0事業 (0.0%)

評価の方法は事業完了度ではなく、目標達成度及び第三者評価の観点から総合的に評価を行いました。また、今後の方向性及び令和3年度の課題につきましても、あわせて検討しました。

本年度の評価は、期待どおりの「A評価」が58.0%、概ね期待どおりの「B評価」が42.0%、課題ありの「C評価」及び事業の見直し要の「D評価」はありませんでした。内容は、「B評価」から「A評価」となった事業が2事業、「A評価」から「B評価」となった事業が11事業あり、前年度と比較すると「A評価」が9事業減、「B評価」が9事業増の結果となりました。

当該年度におきまして、評価が低下した事業の傾向としては、新型コロナウイルス感染拡大に伴う事業の中止及び感染拡大防止対策を行いながらの事業の縮小が、大きな要因であると考えられます。

今後も新型コロナウイルス感染拡大防止対策を踏まえ、当該年度の目標値達成のため事業の効率化、課題解決に向けた取り組みが必要であると考えます。

(2) 主要施策ごとの評価及び課題

■主要施策1 少人数指導等による学力向上

「少人数指導推進事業」の取組により、小学校において、標準学力検査(NRT)における平均偏差値は、平成26年度以降は標準偏差値50を上回っています。中学校においても、標準学力分析検査の結果は年々上昇してきていましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止対策等の影響もあり、今年度は標準偏差値50に対して、47.1でした。また、令和2年度は全国学力・学習状況調査は実施されませんでした。しかし、令和元年度までは、全ての教科において全国平均正答率を上回る学校はありませんでしたが、平成22年度以降すべての教科区分で数値が上昇し、全国平均との差を縮めています。しかしながら、学校間や学年間、学級間の格差がみられることから、今後も、嘉麻市学力向上全体構想における具体策の浸透、

徹底を図っていく必要があります。

「嘉麻市学力向上強化プロジェクト事業」においては、学力向上推進員の学校への指導及び支援体制を継続していきます。また、嘉麻市土曜未来塾では、通塾した児童生徒の保護者からの「自宅で勉強する習慣がついた」、「勉強する時間が増えた」などのアンケート結果から、家庭学習の習慣化ができつつあります。さらに、土曜未来塾で学ぶ児童生徒の様子が、塾の運営にあたる学力向上推進員の学校への指導と関連付けられ、効果的な教育活動を展開できる土壌が培われています。今後も、児童生徒のさらなる参加を促すとともに、個に応じた学習支援により、学力の基礎基本の定着と家庭学習の習慣化を図ります。

■主要施策2 個性又は能力を育成する学校教育の充実

「特別支援教育総合推進事業」や「補助教員配置事業」については、適切な人員配置により、児童生徒の教育的ニーズに応じた支援や指導が図られています。今後ますますその必要性が増えていくことが予想されますので、配置した人員の効果的な活用について工夫していくとともに、個別の教育支援計画及び指導計画に基づき、通常学級と支援学級との連携した支援の充実を図る必要があります。また、特別な支援を要する幼児・児童の早期発見・早期対応に向けた子育て支援課との連携をさらに充実させ、一貫した継続性のある支援に向けた巡回相談と子育て支援課の就学相談窓口の機能化を図ります。

「情報教育推進事業」では、児童生徒の情報活用能力の向上を図るためのICTを活用した授業改善が図られてきました。さらに、新学習指導要領の内容であるプログラミング教育や情報モラル教育など、これからの情報教育について意識を高めることができました。今後は、児童生徒の情報活用能力向上に繋がる授業づくりの研修実施と授業支援が必要となります。

「小中連携・一貫教育研究事業」については、小中一貫教育の実施に向け、先進地視察による情報収集や教職員対象の研修会を実施しました。また、一貫教育本部会議を組織し、一貫教育導入に向けた取組を進めてきました。今後は、小中一貫教育及び義務教育9年間を見通した教育カリキュラム作成や義務教育学校開校に向けた様々な準備について具体的に検討していく必要があります。

「学校施設整備事業」については、安全・安心な教育環境を整備するために重要な事業であり、効率的な維持管理が可能となる小中一体型校舎を整備するため、優先度の高い碓井中学校区、稲築中学校区及び稲築東中学校区の施設整備に着手しました。また、義務教育学校の開校に向けた開校準備委員会を設置し、学校名称の選定を開始しました。

■主要施策3 豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進

不登校問題等の解決に向けた体制の充実を図るため、「教育相談推進事業」や「学校支援相談員配置事業」を実施し、不登校傾向の児童生徒に対する早期対応や関係機関との連携協力による組織的な取組により、不登校の児童生徒数は、平成30年度は52名(出現率1.87%)、令和元年度は51名(出現率1.86%)と減少し、出現率が全国値(H30:1.69%)に近づきつつありましたが、令和2年3月からの3か月間の臨時休業により、昼夜逆転などの生活リズムの乱れや令和2年度は新型コロナウイルス感染への不安等を理由に欠席をする児童生徒が増加し、87名(3.21%)と

なりました。

今後も関係機関との連携を強化し、不登校問題の解消に努めていきます。

また、「適応指導教室（れすとぴあ）推進事業」では、通級生徒15名のうち、小学生2名、中学生3名の児童生徒が、学校復帰を果たしました。このことから、不登校児童生徒にとっては必要な事業であり、今後も継続して実施する必要があります。

「家庭・地域の教育力を高める支援体制の充実」については、青少年健全育成事業として、教育研究所や警察署・補導委員など関係機関と連携・協力しながら、今後とも市内巡回や立番により子どもの安心・安全を守り、青少年のいじめや非行防止に努めてまいります。

家庭教育支援事業では、新型コロナウイルス感染拡大防止対策による学校休業により、子どものメディア接触時間が増加傾向にあることから、児童生徒、保護者及び教職員等を対象に、子どもの発達に合わせたメディアに関する啓発活動（出前講座）、また、家庭教育支援講座については時間短縮や人数制限を行うなど、感染拡大防止対策を講じ実施しました。今後も新型コロナウイルス感染状況を注視しつつ、感染拡大防止対策を考慮した事業を実施し、家庭の教育力向上に努めていきます。

「男女共同参画教育の推進」については、地域社会における男女共同参画推進事業を柱に、家庭や地域などでの日常生活における固定的性別役割分担意識の解消に繋がるよう男女共同参画推進課と連携・協力し、推進してまいります。

■主要施策4 生涯学習の実現を目指す社会教育の推進

生涯学習の実現を目指す社会教育の推進は、「国民一人一人が、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる社会の実現が図られなければならない。」という、教育基本法第三条の“生涯学習の理念”に基づくものです。

「生涯学習関係機関、団体との連携・協力体制の整備」では、社会教育関係団体等育成事業として、生涯学習振興のための推進体制の構築を目指し、社会教育関係団体が自主運営・自主活動ができるよう支援するとともに、関係する団体間でも連携した活動や円滑な事業推進などの指導助言を行いました。課題としては、団体を構成する会員の高齢化と新規加入者の減少とあわせ、新型コロナウイルス感染拡大防止対策における事業縮小で活動が鈍化していることから引き続き支援を行う必要があります。

「学習機会の提供及び学習成果の活用促進」では、ボランティア人材バンク事業として、地域活動の活性化と学校支援を行っていますが、登録者の高齢化や新型コロナウイルス感染拡大防止対策等で事業規模が縮小しています。今後の課題としては生涯学習を実践する“学習機会の場”提供などの整備とともに新たな人材の掘り起こしなど継続した事業の展開が必要です。

また、青少年体験活動推進事業では、新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため通学合宿などの生活体験事業は実施できておらず、感染拡大防止対策を踏まえた今後の事業内容の検討が必要です。加えて、子どもたちの活字離れの抑止と表現力の向上を目的とする「わたしのエッセイ」事業についても学校授業等の進捗状況を考慮し、実施内容を検討する必要があります。

公立公民館・自治公民館連携強化推進事業では、新型コロナウイルス感染拡大防

止対策の影響により分館長や自治公民館長との会議や研修会等が開催できておらず、スキルアップや情報の共有が困難な状況でした。今後は、嘉麻市公民館基本計画に基づく公立公民館の方向性や公民館活動の活性化を図るための組織の再構築など、市民ニーズを踏まえた新しい生活様式の事業を再検討する必要があります。

公民館活動活性化推進事業では、新型コロナウイルス感染状況を見図りながら、講座の定員や回数の縮小を図るなど感染拡大防止対策を講じ、可能な限り地域住民の“生きがいくりと学びの場”の提供に努めてまいります。なお、地域住民との協働事業である小学生を対象とした“ときめき学習”（体験活動と学習のプログラム）は、地域コミュニティや公民館と地域住民との繋がりなど重要な事業であることから、引き続き新しい生活様式を取り入れた内容を検討する必要があります。

「図書館の利用促進」においては、新型コロナウイルス感染拡大防止対策等による臨時休館や読書講演会等各種行事の中止、また開館後も利用時間の縮小等の制限を行ったこともあり、貸出者数、貸出冊数等については大幅に減少する結果となりました。そのような中でも、安心して快適に利用できる図書館を目指し、図書館施設管理運営事業として山田図書館特定天井改修工事や図書館システムの更新を行うなど環境整備を図りました。また、読書活動推進事業や図書ボランティア養成及び活動支援事業は、少人数でのおはなし会など新しい生活様式に合わせた事業を再検討する必要があります。なお、今後も安定した図書館運営を継続していくため、令和4年度からの指定管理者制度導入に向けて関係部署と連携を密にし協議する必要があります。

■主要施策5 体力及び運動能力向上の推進

令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、主要なイベントや教室の自粛や社会体育施設の休館を余儀なくされる状況でしたが、感染拡大防止対策を講じながら、市民の「体力及び運動能力向上の推進」に向け事業の展開を図りました。

スポーツを通じて地域の主体的な活動を促進する「スポーツコミュニティ創造事業」では、スポーツ推進委員や地域活動指導員によるスポーツ教室等により延べ623人の市民に対して運動指導が実施できました。

荒木秀夫名誉教授のコオーディネーショントレーニングをすべての市民に普及することにより、人材育成による地域の活性化、さらには定住人口の増加を目指す「プロジェクトK事業」では、公立保育所全2カ所と私立保育園・幼稚園15園中9園、小中学校全13校がトレーニングを導入し、乳幼児から小中学校児童までは体系的な導入が図れています。令和2年度は高齢者への普及の基本となるコオーディネーショントレーニングDVD～高齢者編～を作成し、市内各公民館、高齢者福祉施設に配布しています。今後も、保育士や小学校教員が日常の指導現場でコオーディネーショントレーニングを実施できるよう指導者の育成を進めながら、乳幼児や小学校児童への事業の充実を図るとともに、高齢者、障がい者等のすべての階層に対するトレーニングの普及を進めてまいります。

「スポーツ環境の整備」におきましては、嘉穂陸上競技場の第4種公認更新に必要な備品等を購入し公認更新を行い、その他、社会体育施設における必要かつ効果的な維持管理に努めました。

また、スポーツ大会やスポーツ合宿を誘致し、交流人口の増加と地域の活性化を目指す「スポーツ大会誘致・スポーツ大会支援事業」では、交流人口が目標の12,000

人を大きく下回り 4,866 人となりましたが、今後も、関係機関と連携した情報提供を行い、施設の維持改善を図りながら、交流人口の増加を目指します。

■主要施策 6 人権尊重精神を育成する教育の推進

「社会教育における人権・同和教育の推進及び支援」では、人権・同和教育推進事業として、行政区、各種団体等や事業主、また、各地区公民館と連携して市民を対象とした研修会の開催は、新型コロナウイルス感染拡大において厳しい状況が続く、人権学習の推進を図る機会が減少している状況です。しかし、こうした状況下ではありますが人権に関する意識が高められる研修会等は必要不可欠であり、今後も関係団体等には研修会などの開催を働きかけ、社会状況に応じた人権教育・啓発の推進に一層努めてまいります。

また人権・同和教育を推進する少年団体及び関係団体の育成事業では、人権問題について正しい認識と理解を深めるため、定期的な講座等の開催を促し、活動に対して助言等を行うなど、行政・学校・団体と緊密な連携を図りながら、情報共有を常に行い、学びの継続に繋がる事業を推進する必要があります。今後も、部落問題をはじめとする様々な人権問題について、学習機会の提供と支援及び事業展開の構築に努めます。

■主要施策 7 市民文化の創造

「美術に関する創造的活動の推進」では、新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため多くの事業を中止する状況でしたが創意工夫により 11 月末に筑豊地区中学校総合文化祭美術文化作品展、2 月に嘉麻市書初め大会作品展が開催でき、今後の新しい開催方法の成果が見出せたところです。

美術館運営管理事業では、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を徹底し事業に取り組み、収蔵庫の温湿度調整や燻蒸、作品の修復やデジタル化などを継続的に実施しました。今後も、施設と収蔵作品の適切な維持管理に努め、活用を図る必要があります。

企画展事業では、「中原淳一展」「県美術展覧会筑豊展」は中止となりましたが、臨時休館を活用し常設作品の入替や収蔵作品をホームページから検索できる仕組みを構築し、春のコレクション展 2021 では、織田廣喜美術館の 25 年の歩みとして織田廣喜の魅力を効果的に発信し好評を得ております。

これまでのこうした取り組みを踏まえ、織田廣喜美術館が一層魅力あるものになるよう、令和 4 年度からの指定管理者制度導入に向け、関係部署と連携を密にし協議する必要があります。

「文化財の保護・継承・活用」について、文化財行政の土台となる郷土の歴史文化を守る事業では、文化財の調査研究や指定文化財の維持管理等を行っています。少子高齢化社会の中で、地域に残る文化財の保存・継承が厳しくなっている中、地域と行政とが連携しそれらの保存と活用を推し進めていく仕組みづくりが大きな課題となっています。

また、文化財の活用にかかる郷土の歴史文化を伝える事業及び郷土の歴史文化拠点施設活用事業では、新型コロナウイルス感染拡大の影響でイベント参加者数や施設への入館者数は総じて減少となりました。引き続き文化財ボランティア活動の充実と施設の適正な維持管理に努めると共に、今後はポストコロナ社会を見据えて、

インターネットやデジタル技術を活用した教育普及事業の取り組みについても充実させていく必要があります。

(3) おわりに

令和2年度は「第4次教育アクションプラン」実施期間の最終年度となります。

次年度からは「第5次教育アクションプラン」に入りますが、点検評価委員の皆様からいただきましたご指摘等を各事業の目標数値を達成するための取組に反映し、本市の教育行政の更なる発展に役立てていきたいと思っております。

最後に、点検評価にご出席いただき、ご尽力くださいました委員の皆様にご心よりお礼を申し上げ、点検・評価報告書のまとめとさせていただきます。

《資料》

嘉麻市教育委員会点検評価実施要綱

[平成21年嘉麻市教育委員会要綱第6号]

[平成23年嘉麻市教育委員会要綱第4号]

[平成24年嘉麻市教育委員会要綱第4号]

[平成26年嘉麻市教育委員会要綱第4号]

[平成26年嘉麻市教育委員会要綱第6号]

[平成27年嘉麻市教育委員会要綱第3号]

[令和2年嘉麻市教育委員会要綱第1号]

(趣旨)

第1条 この要綱は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第26条及び嘉麻市教育基本条例（平成22年嘉麻市条例第16号。以下「条例」という。）第7条の規定に基づき、嘉麻市教育委員会（以下「教育委員会」という。）が実施する事務の点検及び評価について、必要な事項を定めるものとする。

(点検評価事項)

第2条 教育委員会は、前年度の教育委員会の事務の管理及び執行の状況について、次に掲げる事項の点検及び評価（以下「点検評価」という。）を行う。

(1) 教育委員会の会議の実施状況等に関すること。

(2) 教育委員会の主要な施策に関する執行の状況及びその成果に関すること。

(点検評価の方法)

第3条 教育委員会は、点検評価を実施するに当たり、別に定める評価表により教育委員会事務局において、その所管する事務事業等の自己評価を行わせるものとする。

2 教育委員会は、前項の自己評価の結果について評価の客観性を確保するため、嘉麻市教育委員会点検評価委員（以下「評価委員」という。）を設置する。

3 教育委員会は、評価委員の意見を踏まえ、教育委員会の会議において最終的な点検評価を行う。

(評価委員)

第4条 評価委員は、10人以内とし、次に掲げる者のうちから教育委員会が委嘱する。

(1) 嘉麻市議会議員

(2) 嘉麻市PTA連合会委員

(3) 嘉麻市社会教育委員

(4) 嘉麻市公民館運営審議会委員

(5) 嘉麻市立図書館協議会委員

(6) 嘉麻市立織田廣喜美術館運営協議会委員

(7) 嘉麻市スポーツ推進委員

(8) 嘉麻市文化財保護審議会委員

(9) その他教育委員会が適当と認める者

(公表の方法)

第5条 教育委員会は、条例第7条の規定により点検評価の結果に関する報告書は次に掲げる方法で公表する。

- (1) 嘉麻市公式ホームページに掲載
- (2) 報道機関に提供
- (3) 教育委員会での閲覧
(庶務)

第6条 点検評価の実施に関する庶務は、主管課において処理する。

(その他)

第7条 この要綱に定めるもののほか、点検評価の実施に関し必要な事項は、教育長が定める。

附 則〔平成21年嘉麻市教育委員会要綱第6号〕

この要綱は、平成21年7月8日から施行する。

附 則〔平成23年嘉麻市教育委員会要綱第4号〕

この要綱は、平成23年4月5日から施行する。

附 則〔平成24年嘉麻市教育委員会要綱第4号〕

この要綱は、平成24年4月1日から施行する。

附 則〔平成26年嘉麻市教育委員会要綱第4号〕

この要綱は、平成26年4月1日から施行する。

附 則〔平成26年嘉麻市教育委員会要綱第6号〕

この要綱は、平成26年10月6日から施行する。

附 則〔平成27年嘉麻市教育委員会要綱第3号〕

この要綱は、令和2年6月2日から施行する。

附 則〔令和2年嘉麻市教育委員会要綱第1号〕

この要綱は、令和2年6月2日から施行し、改正後の嘉麻市教育委員会点検評価実施要綱の規定は、令和2年4月1日から適用する。

令和3年度嘉麻市教育委員会点検評価委員名簿

(敬称略)

	団 体 名	氏 名
1	嘉麻市議会	畠中 博文
2	嘉麻市PTA連合会	塩川 智津子
3	嘉麻市社会教育委員の会議	鈴木 淑文
4	嘉麻市公民館運営審議会	春口 勇介
5	嘉麻市立図書館協議会	坂本 由美子
6	嘉麻市立織田廣喜美術館運営協議会	手島 静恵
7	嘉麻市スポーツ推進委員	山方 国和
8	嘉麻市文化財保護審議会	氷室 崇元

嘉麻市教育委員会点検・評価報告書

(令和2年度事業分)

発行 嘉麻市教育委員会 教育総務課
〒820-0592 福岡県嘉麻市上臼井 446 番地 1
TEL 0948-62-5723

発行年月 令和3年9月